



平成29年度
創価大学教職大学院講義要項
教職研究科 教職専攻

目次

共通科目

教育課程の編成及び実施に関する領域……………(3)

学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン
学校カリキュラムと教育研究推進の組織化
個の学びの支援と学習デザイン

教育等の実践的な指導方法に関する領域…(11)

教科等の指導開発研究A I (国語、社会)
教科等の指導開発研究A II (国語、社会)
教科等の指導開発研究B I (算数、理科)
教科等の指導開発研究B II (算数、理科)
教科等の指導開発研究C (図工、体育)
教科等の指導開発研究D (生活科・総合的学習)
教科等の指導開発研究E (外国語活動)
教科等の指導開発研究F (道徳)

生徒指導及び教育指導に関する領域……………(48)

特別活動と生徒指導
学校カウンセリングの現状と課題
特別支援教育の現状と課題
子どもの人権を保障する学校文化の形成

学級経営及び学校経営に関する領域……………(59)

教育行政・学校経営の現状と課題
学級のデザインと子ども同士の関係づくり
教員研修実務研究

学校教育と教育の在り方に関する領域……………(65)

生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割
子ども理解・保護者理解
人間的成長に関する理論と実践
教員の服務等と教育法規

分野別科目

教育実践総合研究……………(74)

教育実践研究方法 I
教育実践研究方法 II
学習指導の方法研究 I
学習指導の方法研究 II
学習活動の組織化とその評価
授業力育成のための理論と方法
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進 I
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進 II
総合学習と社会参加学習論
ICT を活用した教育活動

人間教育総合研究……………(103)

人間教育実践分析研究
人間教育実践分析課題研究
人間教育事例分析研究
人間教育事例分析課題研究

教育開発総合研究……………(123)

教職課題研究 I
教職課題研究 II

教育課題実地総合研究……………(148)

教育課題実地研究(国内)奈良
教育課題実地研究(国内)富山
教育課題実地研究(国外)米国
教育課題実地研究(国外)中国

■科目名 **学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン**

■教員名 **長崎 伸仁 三津村 正和**

■授業概要

本授業科目は、各学校における教育内容の国家的基準である「学習指導要領」の意義と基本的性格を的確に理解できるように展開する。また、現在どのような教科カリキュラムが求められているのかを、各受講者の問題関心や実務経験に即して、デザインする。さらに、次期学習指導要領改訂の柱の一つとなる「主体的・対話的で深い学び」(いわゆるアクティブ・ラーニング)について、教科カリキュラムの上に具体的にデザインするスキルの育成を目指す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>本授業科目の意図と内容構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成 28 年 12 月 21 日付けの中教審答申から見えてくること ● 教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科の確定 <p>【準備学習】(上記の)中教審答申、新「学習指導要領」を読んでおくこと。</p>
第2回	<p><講義・演習>アクティブ・ラーニング(AL)の理論と実践(1):「学習課題」から見たAL(AL型授業における学習課題の設定)</p> <p>【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成</p>
第3回	<p><講義>ALの理論と実践(2):「教育学」から見たAL(ALとは何か、何のためのALか、ディープALの考え方)</p> <p>【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成</p>
第4回	<p><講義・演習>ALの理論と実践(3):「教育方法学」から見たAL(ALの多様な学習形態:協同学習、PBL等)</p> <p>【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成</p>
第5回	<p><講義・演習>ALの理論と実践(4):「教育工学」から見たAL(学習意欲のデザイン:ARCSモデル)</p> <p>【準備学習】指定された文献の精読と課題の達成</p>
第6回	<p><発表・討議>ALを取り入れた各教科のデザイン(1)</p> <p>【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。</p>
第7回	<p><発表・討議>ALを取り入れた各教科のデザイン(2)</p> <p>【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。</p>
第8回	<p><発表・討議>ALを取り入れた各教科のデザイン(3)</p> <p>【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。</p>
第9回	<p>これまでの振り返り、教科横断型デザインの理論</p> <p>【準備学習】振り返りに備える。</p>
第10回	<p><発表・討議>ALを取り入れた教科横断型授業のデザイン(1)</p> <p>【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。</p>

第11回	<発表・討議>ALを取り入れた教科横断型授業のデザイン(2) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第12回	<発表・討議>ALを取り入れた教科横断型授業のデザイン(3) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第13回	<発表・討議>ALを取り入れた教科横断型授業のデザイン(4) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第14回	<発表・討議>ALを取り入れた教科横断型授業のデザイン(5) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第15回	総括的討議、本授業科目のまとめ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導的な立場にある管理職候補者は、国の方針や都道府県等教育委員の方針を踏まえつつも、各学校等の現状や児童生徒の現況に鑑みて、どのような教科カリキュラムであるのが適切なのかを、現行の学習指導要領やアクティブ・ラーニングの考え方を基に思考し判断することができる。

(現職教員)

アクティブ・ラーニングの理論と応用を理解した上で、「思考力・判断力・表現力」は、どのような教科カリキュラムをデザインすることで育まれるのか究明することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

アクティブ・ラーニングの基本的な考え方を理解するのとともに、各教科の特性を把握した上で、児童生徒のどのような力をどのようにすれば育むことができるのかを、教科カリキュラムをデザインすることで探求することができる。

■評価方法

- 15回の全授業での演習等での参画状況。
- 個人またはグループでのプレゼンテーションや最終レポートの充実度。

■使用教材

- 長崎伸仁・三津村正和 他(2017)『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』(明治図書)
- 平成28年12月21日付け「中教審答申」
- 新「学習指導要領」「学習指導要領(解説編)」
- 他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校カリキュラムと教育研究推進の組織化**■教員名** 寺林 民子 若井 幸子**■授業概要**

本科目は、児童・生徒が学校生活全体を通して学び習得するカリキュラムの効果的経営の原則と基本方策を的確に理解されることをねらいとしている。すなわち、各学校で日々展開される個別の教授・学習活動(授業)は、その学校のカリキュラムとして統合され、銘々の児童・生徒にとっての豊かな学習に結びつくように、教員側が教育研究推進の仕組み(体制)をどのように整え、運営すればよいかを究明する授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 科目授業の意義 履修生の学びの紹介 【準備学習】シラバスの確認
第2回	各人の課題意識とこの科目で学びたいこと 【準備学習】自己の現時点での課題意識学びたいこと 勤務校(実習校)の教育経営資料の収集
第3回	学校カリキュラムの効果的経営原則(1) 子どもの個の学び —個別児童・生徒対象の学習アセスメントの意義・方法— 【準備学習】配布資料の学習
第4回	学校カリキュラムの効果的経営原則(2) 指導者の立場 —指導担当教員対象のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、①学習評価と②教育活動評価 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第5回	学校カリキュラムの効果的経営原則(3) —学校総体のカリキュラム経営の意義・方法— 4つの評価の連続性、③学校経営評価 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第6回	学校カリキュラムの効果的な経営原則についてのディスカッション 4つの評価の連続性、④学校評価 【準備学習】1回から5回までの学習を踏まえた課題意識の明確化
第7回	勤務校の事例とその分析(1) 学生の報告とディスカッション 【準備学習】配布事例(4題)について取り組みの様子と課題の把握と分析
第8回	勤務校の事例とその分析(2)(3) 学生の報告とディスカッション 【準備学習】配布事例について取り組みの様子と課題の把握と分析

第9回	先進的な学校の事例とその分析(4) 【準備学習】配布事例についての読み込みと分析
第10回	校内教育研究推進体制の構造と運営(1) 【準備学習】自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第11回	校内教育研究推進体制の構造と運営(2) 【準備学習】自校の研究推進の分析・(配布資料の分析)とふりかえり
第12回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(1) 先進的な学校の事例研究 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第13回	校内教育研究推進体制組織化の事例研究(2) 講師招聘 と西 穰司教授と学生の報告とディスカッション 【準備学習】配布資料の読み込みと分析
第14回	科目授業学びと今後の取り組み 【準備学習】各自のテーマ
第15回	本授業科目全般のまとめ 【準備学習】本科目授業を通して明らかになったこと考察についてのレポート 履修者のみの冊子として配布し学びの資料とする

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用でき、組織体制の構築を指導できる。

(現職教員)

わが国の各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての的確な理解を得るとともに、その日常的展開のための適切な方策を活用できる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

各学校における効果的なカリキュラム経営の原則についての冷静かつ的確な理解を得るとともに、その具体的な展開事例についての取材・分析・整理の作業を遂行する。

■評価方法

- (1) 第14回までの演習での質問・協議への参画状況
- (2) 各学校の効果的なカリキュラム経営に関する基本認識の的確性と事例研究での取り組み状況・成果を反映した最終レポートの充実度。

■使用教材

『教育経営と教育課程の編成・実施』 日本教育経営学会編〔日本教育経営第4巻〕

ぎょうせい 1987

『子どもが自分を生きる授業—自己変革を促す校内研修』(富山市立堀川小学校)明治図書

『授業記録による授業改革のプロセス』東海市小・中学校教師の挑戦

名古屋大学・東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004

『学習する学校』ピーター・センゲ 英治出版

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 個の学びの支援と学習デザイン**■教員名** 寺林 民子**■授業概要**

この科目は、個別学習の指導法の授業ではありません。一人の人間として生き抜こうとする子どもの理解とその可能性を、どのように具体的に見つめ、教育の実践に生かすことができるかという資質を養うことが目的です。そのために、「個」とは何かという根本のとらえ方が、教育を深める最重要の規定の1つと考えます。

個別、個性、個はどう違うのか、個と集団、個の理解、個の確立とは、個の評価とは何か、個の何に着目して見ている各人なのか等、深く吟味します。海外の個の理解はどのようになされているのか。日本の優れた個のとらえ方の着眼から学びます。時間的には、幼児から大人までの連続する個の成長を視野に、日常の授業実践まで、演習を通して学びます。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ・個の把握の教育における意味 ・各人の問題意識の掘り上げ、個に関わる指導のイメージのとらえ方
第2回	・個の把握の教育における意味 ・いじめ問題、グローバル教育、社会学的な視点など ・各人の問題意識の掘り上げ、個に関わる指導のイメージのとらえ方
第3回	「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション 各人の課題意識の掘り起し① 【準備学習】「各人の個についての課題意識」のふりかえり
第4回	子どもの全体像を描く 描写レビュー①(アメリカの実践) 【準備学習】『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第5回	子どもの全体像を描く 描写レビュー(アメリカの実践) 【準備学習】『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編の学習
第6回	子どもの全体像を描く 描写レビュー:日本の実践② 事後学習:演習からのふりかえり
第7回	子どもの「個」の確立のために 個性追求の視点(日本) 【準備学習】『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習
第8回	「個に応じた指導」諸外国の事例の比較 「個に応じた指導」や「個の捉え方」をめぐるディスカッション

	各人の課題意識の掘り起し②
第9回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)① 【準備学習】配布資料の学習
第10回	「個に応じた指導」が導入された経緯(日本)② 【準備学習】配布資料の学習
第11回	「個」の性質、「個」とは何か 【準備学習】『個性の見方育て方』重松鷹泰の学習、配布資料の学習
第12回	「個」をとらえる一幼児教育の事例からの考察 事後学習: 視聴資料のふりかえりと考察
第13回	演習: 教育実践事例から個の学びをとらえる① 【準備学習】配布資料の学習 事後学習: 共同しての解釈のふりかえりと吟味
第14回	演習: 教育実践事例から個の学びをとらえる② 【準備学習】配布資料の学習 事後学習: 共同しての解釈のふりかえりと吟味
第15回	演習: 教育実践事例から個の学びをとらえる③ 【準備学習】配布資料の学習 事後学習: 共同しての解釈のふりかえりと吟味

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導法の違いによる影響や効果をふまえた上で、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方について体系的に理解するとともに、児童理解の規定である「個」の捉え方について個々の教員や学校単位での授業の計画と実践の場面において指導助言をすることができる。

(現職教員)

指導法の違いによる影響や効果をふまえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方と課題の解決に向けた実施案を提案する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

指導法の違いによる影響や効果を踏まえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解し、計画・実施に必要な準備や条件等を整理するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方とに基づいて授業を計画する。

■評価方法

授業時のプレゼンテーションやレポート、最後にまとめとして提出するレポートを資料として総合的に判断する。

■使用教材

適宜配布資料の他

『個と個性』重松鷹泰(第三文明社)

『子どもの学びと自己形成ー子どもの危機を救うこれからの評価観』堀川小学校(明治図書)『個の成長ー可能性の開発をめざしてー』堀川小学校(明治図書)『個性の見方育て方』重松鷹泰(第三文明社)『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編(ミネルバ書房)『学校と教育』デューイ(岩波文庫)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 A I (国語)

■教員名 長崎 伸仁 石丸 憲一

■授業概要

「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた文学教材の授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から構想する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○目標と進め方を知る。 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』を読む。本授業の振り返り。
第2回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業の理論 等 ●『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』の考察の分担(個人またはグループ)の決定。 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』を読む。本授業の振り返り。
第3回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察①(1年「ずうっと、ずっと、大すきだよ」) 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(「ずうっと、ずっと、大すきだよ」)の考察。本授業の振り返り。
第4回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察②(2年「お手紙」) 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(「お手紙」)の考察。本授業の振り返り。
第5回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察③(3年「モチモチの木」) 【準備学習】「モチモチの木」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(モチモチの木)の考察。本授業の振り返り。
第6回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察④(4年「ごんぎつね」) 【準備学習】「ごんぎつね」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(ごんぎつね)の考察。本授業の振り返り。
第7回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察⑤(5年「注文の多い料理店」) 【準備学習】「注文の多い料理店」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(注文の多い料理店)の考察。本授業

	の振り返り。
第8回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察⑥(6年「川とノリオ」) 【準備学習】「川とノリオ」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(川とノリオ)の考察。本授業の振り返り。
第9回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業を構想するポイント ●プレゼン(個人またはグループ)の分担決定 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読む。本授業の振り返り。
第10回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案①(教材は院生が選択) 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第11回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案②(教材は院生が選択) 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案③(教材は院生が選択) 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案④(教材は院生が選択) 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案⑤(教材は院生が選択) 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案⑥(教材は院生が選択) ○まとめと振り返り 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題 48』を読み、文学の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法(アクティブ・ラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の文学教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを! アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)

長崎伸仁 他『アクティブ・ラーニングで授業を変える! 「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』(明治図書)

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究 A I (社会)

■教員名

宮崎 猛 吉田 和義

■授業概要

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試みる。

特に本授業の特徴はフィールドワークを通して自らが学修しながら、指導の方法を身に付けていくことである。授業日以外の休日に臨検(これまでに銀座・築地方面、横浜、新宿に出向いた)を行ったり、東京地方裁判所に赴き、実際の裁判を傍聴したりするなどである。

なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	社会科誕生の背景と歴史 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	初期社会科の実践とその本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検事前学習3(地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何か

	について考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	フィールドワーク臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	社会科教育の現代的課題—法教育 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	裁判傍聴の事前準備 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

社会科の本質ならびに現行学習指導要領の特質、社会科の評価の在り方を理解し、研究的なアプローチに基づいて自ら教材を開発し、展開することができる力量を育成する。

■評価方法

- | | | | | | |
|-------|--------------|---|---------|---------|--------------|
| ○評価方法 | 出席：30点（2×15） | レポート・振り返り：30点、授業への参加意欲：20点、最終報告書・指導案20点 | | | |
| ○評価基準 | S：90点以上 | A：80点以上 | B：70点以上 | c：60点以上 | D（不合格）：59点以下 |

■使用教材

宮崎猛（編著）『社会科教育の創造－基礎・理論・実践－』教育出版（2009年）
竹内裕一・加賀美雅弘（編著）『身近な地域を調べる 増補版』古今書院（2009年）

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名 教科等の指導開発研究 AⅡ(国語)**■教員名** 長崎 伸仁 石丸 憲一**■授業概要**

「思考力・判断力・表現力」の育成を、アクティブラーニングを取り入れた説明文教材の授業でどのように具体化するのか―理論と実践の往還の観点から構想する―

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○目標と進め方を知る。(担当:長崎・石丸) 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)を読む。本授業の振り返り。
第2回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業の理論 等 ●長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)の考察の分担(個人またはグループ)の決定。 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)を読む。本授業の振り返り。
第3回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた1年説明文の教材研究と授業実践の考察 ① 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)を読む。本授業の振り返り。
第4回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた1年説明文の教材研究と授業実践の考察 ② 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)を読む。本授業の振り返り。
第5回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた3年説明文の教材研究と授業実践の考察 ③ 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)を読む。本授業の振り返り。
第6回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた4年説明文の教材研究と授業実践の考察 ④ 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを

	びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』（東洋館出版社）を読む。本授業の振り返り。
第7回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた5年説明文の教材研究と授業実践の考察⑤ 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』（東洋館出版社）を読む。本授業の振り返り。
第8回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた6年説明文の教材研究と授業実践の考察⑥ 【準備学習】教科書として使用する長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』（東洋館出版社）を読む。本授業の振り返り。
第9回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた説明文の授業を構想するポイント ●プレゼン(個人またはグループ)の分担決定 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読む。本授業の振り返り。
第10回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた1年説明文の授業提案① 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第11回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた2年説明文の授業提案② 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第12回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた3年説明文の授業提案③ 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第13回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた4年説明文の授業提案④ 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた5年説明文の授業提案⑤ 【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。

第15回	<p>○アクティブ・ラーニングを取り入れた6年説明文の授業提案⑥</p> <p>○まとめと振り返り</p> <p>【準備学習】『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』を読み、説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。</p>
-------------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法(アクティブ・ラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の説明文教材の指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

- *教科書 ①長崎伸仁・石丸憲一 他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(東洋館出版社)
- ②『アクティブ・ラーニングで授業を変える！「判断のしかけ」を取り入れた小学校国語科の学習課題48』(明治図書)

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**教科等の指導開発研究AⅡ（社会）****■教員名**

宮崎 猛 吉田 和義

■授業概要

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試みる。

そのために、教科等の指導開発研究AⅠ（社会科）同様の臨検を各自の問題意識を前提に再度行う（Ⅰとは異なった場所）ものとする。また、裁判傍聴ないしはそれに類するフィールドワークも行う。

なお、本授業（AⅡ）でのフィールドワーク（臨検ならびに裁判傍聴）では、AⅠで学んだ方法論を応用し、参加者自身が教師の立場に立って企画・運営する要素を取り入れるものとするが、AⅡのみの履修も可能である。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	学習指導要領の理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	社会科教育の本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検事前学習1（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検事前学習2（地図の見方、読み方等） 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第8回	臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	教材開発の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	教材開発の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自(各グループ)が開発した教材の紹介(プレゼンテーション)とその振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	社会科授業案(指導計画・指導案)作成の実際① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	社会科授業案(指導計画・指導案)作成の実際② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科について、学習指導要領の理解ならびに授業づくりの方法、指導目標の特質等について理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を培う。

■評価方法

○評価方法 振り返り 30% プレゼンテーション・レポート 30% 期末リサーチペーパー
40%

○評価基準 S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

宮崎猛(編著)『社会科教育の創造 ― 基礎・理論・実践―』教育出版 2009年

竹内裕一・加賀美雅弘(編著)『身近な地域を調べる 増補版』古今書院 2009年

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

教科等の指導開発研究B I (算数)

■教員名

鈴木 将史 鈴木 詞雄

■授業概要

今期のテーマは「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」である。平成 28 年の中央教育審議会答申、そして平成 32 年度に完全実施される新学習指導要領において、教科等の指導における大きな方向性として「主体的・対話的で深い学び」が強調されている。「主体的・対話的で深い学び」を包括する「アクティブ・ラーニング」の理論と実践を学びつつ、各学年の各領域における「主体的・対話的で深い学び」とは何かを考える。

この授業では、算数科における「アクティブ・ラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」とは何かを解き明かし、教材研究・模擬授業を行っていききたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の理論 中央教育審議会答申における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を確認し、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第3回	○「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の授業研究[1] 先行実践されている授業案のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○低学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[1] 低学年の教科書における「主体的・対話的で深い学び」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○低学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[2] 低学年における「主体的・対話的で深い学び」の授業案を提案し、検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○低学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[3] 低学年における「主体的・対話的で深い学び」の模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の授業研究[2] 「主体的・対話的で深い学び」を支える授業技術のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[1] 中学年の教科書における「主体的・対話的で深い学び」を調べ、その目的・意義

	<p>を理解する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第9回	<p>○中学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[2]</p> <p>中学年における「主体的・対話的で深い学び」の授業案を提案し、検討する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第10回	<p>○中学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[3]</p> <p>中学年における「主体的・対話的で深い学び」の模擬授業を行い、討論する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第11回	<p>○「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の授業研究[3]</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を支える授業技術のねらいと効果を議論する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第12回	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[1]</p> <p>高学年の教科書における「主体的・対話的で深い学び」を調べ、その目的・意義を理解する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第13回	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[2]</p> <p>高学年における「主体的・対話的で深い学び」の授業案を提案し、検討する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第14回	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」[3]</p> <p>高学年における「主体的・対話的で深い学び」の模擬授業を行い、討論する。</p> <p>【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
第15回	<p>○まとめ</p> <p>授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」を含む算数授業について、中央教育審議会答申や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の現場で利用できる「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」に関する新しい授業案を開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

中央教育審議会答申や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度を考慮した「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の授業分析、教材開発を行うことができる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどに

よって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究B I (理科)

■教員名 桐山 信一

■授業概要

本授業では小中学校の理科教材化について学ぶ。前期は主として、次の内容を学び、科学的リテラシーやスキルの基礎を幅広く培う。

- ・理科授業における児童、生徒の実験データの適切な処理やグラフ化の手法、単元や授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する手法(量的研究の手法)の統計的基礎を学ぶ。
- ・児童、生徒が苦手意識をもつ天文領域の教材を実例にして、観察事実の記述方法などのスキルを探る。
- ・野外実地調査のなかで線量測定・土壌測定などを行い、取得したデータを学んだ手法を用いて分析する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、現行学習指導要領における学校理科の目標と内容、各学年で求められる探究スキル(科学的リテラシーの基礎)、新指導要領(2017,3)で求められる資質・能力 【準備学習】なし
第2回	アメリカの実践に学ぶ小学校理科における探究スキルの育成 【準備学習】教材①の前時に指示されたところ
第3回	児童・生徒の実験データ処理の適切な指導(グラフ化と回帰線) 算数科の領域「資料の整理」と関連させて(記述統計) 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第4回	理科授業の有効性を証明するために事例検討(アンケート例、授業前後の比較、学級間の比較) 【準備学習】教材②の前時に指示されたところ
第5回	天体を観測する枠組みを知るー地平座標と赤道座標ー 天球儀を操作し扱いに慣れる 【準備学習】教材③の前時に指示されたところ
第6回	天文教材に関する教育論文を読むー教材化の視点を探るー 【準備学習】教材④の前時に指示されたところ
第7回	天文教材に関する教育論文を読むー科学的思考にふれるー 【準備学習】教材④の前時に指示されたところ
第8回	天文教材作りー科学的思考の深め方を探るー 【準備学習】教材④の前時に指示されたところ
第9回	太陽表面に生じる事象を観測する 小中の理科における観察事実の記録の仕方、考察のさせ方を探る

	【準備学習】教材⑤の前時に指示されたところ
第10回	最近の教育課題から(原発事故避難者の子どもへのいじめとその背景) 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ
第11回	野外実地調査の方法 ー線量計の使い方・正しい測定方法・データ処理の仕方ー 【準備学習】教材⑦の前時に指示されたところ
第12回	野外実地調査 I 【準備学習】教材⑦の前時に指示されたところ
第13回	野外実地調査 II 【準備学習】教材⑦の前時に指示されたところ
第14回	野外実地調査で採取したサンプルデータの評価・分析 I 【準備学習】教材②④⑦の前時に指示されたところ
第15回	野外実地調査で採取したサンプルデータの評価・分析 II まとめと課題 【準備学習】教材⑥の前時に指示されたところ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を教員に指導でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができる。

(現職教員)

児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を実施でき、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を実施することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

児童、生徒の実験データについて適切な処理方法を理解し、授業前後における児童、生徒の変容を量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40%とする。

■使用教材

①南 美穂子:米国小学校の問題解決型の統計科学的思考力育成、慶應義塾機関誌「三田評論」、2014年11月号(論説)

②柳井久江:4Step エクセル統計 第2~4版、2015年

③天球儀取扱説明書、星座早見版取扱説明書など

④Rosa M Ross:Stellar Demonstrator、physics education、44-4、July 2009

⑤太陽望遠鏡取り扱い説明書など

⑥文部科学省放射線学習資料、市民団体作成放射線学習資料など
「原発事故避難者といじめ」に関する新聞記事など

⑦過去の桐山ゼミ実地調査報告書など

※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。

※教材はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。

<http://home.soka.ac.jp/~kiryama/>

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■その他（科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス）

①小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。

②粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。

③学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

④実験技能の修得と向上を目指す場合は教育学部の「理科実験」を履修すること。

■科目名 教科等の指導開発研究BⅡ(算数)**■教員名** 鈴木 将史 鈴木 詞雄**■授業概要**

今期のテーマは「割合の指導について」である。「割合」は「分数の割り算」と並んで、ここ数年最も多く取り上げられた「難所」のひとつである。この「割合」について、各教科書はどのように扱っているのか調べ、「何が難しいのか」を明らかにし、そして「どのように指導すればよいのか」について多くのアイデアを出し合っていきたい。

さらに模擬授業を通してアイデアを磨き、現場での指導にも大いに役立つ教材研究としていきたい。教材研究を進めるうちに、「割合」の概念が実は小学校算数のかなり早い段階から現れていること、そして似たような考えが繰り返し現れ、「小数や分数の掛け算割り算」も、同じ考えで指導されることが明らかになってくるであろう。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「割合」に関する教科書の扱い[1] 各教科書における扱いを調べ、その相違について整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「割合」に関する教科書の扱い[2] 前回に引き続き、各教科書における扱いを調べ、整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「割合」指導の困難分析 教科書の内容のどの部分が困難を生じるのか分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「割合」の授業研究[1] 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「割合」の授業研究[2] 前回に引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「割合」の理論研究 「割合」の単元と他の単元との関係性を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第9回	○困難解消への工夫[1] 前半で明らかになった各困難項目を克服する新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第10回	○困難解消への工夫[2] 前回到引き続き、新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「割合」についての模擬授業[1] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「割合」についての模擬授業[2] 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「割合」から見る「比と比例」 「割合」に関連する単元として、「比と比例」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「割合」から見る「分数の乗除」 「割合」に関連する単元として、「分数の乗除」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

「割合」の単元に関する算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。

(現職教員)

実際の教室の現場でも利用できる、「割合」の単元に関する新しい授業案を、教科書の記述を生かしながら開発することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度も考慮した「割合」の授業分析、教材開発が行えるようになる。

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配

布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教科等の指導開発研究BⅡ(理科)

■教員名

桐山 信一

■授業概要

本授業では、学習者の科学的リテラシーを育てるための教材化について、粒子・エネルギー領域における今日的課題を踏まえて考察する。後期は得られた成果から教材を作る教育的技能を養い、その教材の教育的有効性を評価する態度を養う。

- ・理科授業における単元や理科授業の前後における児童、生徒の変容を調べ評価する方法に即して、幅広い量的研究の手法を学ぶ。
- ・野外実地調査を行い、取得したデータをこれまで学んだ手法を用いて多角的に分析する。
- ・科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し模擬授業を実施し、相互に評価する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、現行と新学習指導要領における学校理科で求められる探究スキルと科学的リテラシーの関係を考える 【準備学習】なし
第2回	理科授業の有効性を証明するための手法(平均値の比較以外の多様な分析方法の考え方と事例紹介) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第3回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅰ(exelによるデータ分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第4回	理科授業の有効性を証明するために事例検討Ⅱ(exelによるデータ分析の実施) 【準備学習】使用教材①で前時に指示されたところ
第5回	エネルギー問題の現状と課題Ⅰ－日本のエネルギー事情－ 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第6回	エネルギー問題の現状と課題Ⅱ－粒子と放射能－ 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第7回	エネルギー問題の現状と課題Ⅲ－核兵器・原子力発電－ 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第8回	エネルギー問題の現状と課題Ⅳ－核実験・原発事故の環境影響－ 【準備学習】使用教材②で前時に指示されたところ
第9回	エネルギー問題の現状と課題Ⅴ－原発事故の思わぬ影響・いじめ－ 【準備学習】使用教材③で前時に指示されたところ

第10回	野外実地調査Ⅰ 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第11回	野外実地調査Ⅱ 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第12回	野外実地調査で採取したサンプルのデータの分析 【準備学習】使用教材④で前時に指示されたところ
第13回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅰ—教材作成— 【準備学習】使用教材⑤で前時に指示されたところ
第14回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅱ—教材作成— 【準備学習】使用教材⑤で前時に指示されたところ
第15回	理科で実施する脱原発・エネルギー教育の教材化Ⅲ—発表と評価— まとめと課題 【準備学習】使用教材③⑤で前時に指示されたところ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を教員に指導することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成、実施、相互に評価することについて、教員に指導することができる。

(現職教員)

授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価を実施することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)を作成し、実施し、相互に評価することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

授業前後における児童、生徒の変容を多様な量的研究の手法で調べる授業の評価方法を理解することができ、科学的リテラシーを育てるための指導事例(児童、生徒のデータ処理の作業を含む)の作成することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40%とする。

■使用教材

- ①柳井久江:4Step エクセル統計 第2～4版、2015年
- ②桐山信一:理科概論—エネルギー科学基礎—、創価大学、2014年
- ③文部科学省放射線学習資料、市民団体作成放射線学習資料など
「原発事故避難者といじめ」に関する新聞記事など
- ④過去の桐山ゼミ実地調査報告書など

⑤2016年度に教育学部生が作成した放射線学習指導計画など

※シラバス内の授業の順番は変更することがあります。

※教材①②は必ずしも購入しなくてもよいです。③④⑤はコピー配布または、HPからのダウンロードとします。<http://home.soka.ac.jp/~kiryama/>

■**授業で使用する言語**

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■**その他 (科学的リテラシーを育むための基礎を身に付けたい場合のアドバイス)**

①小学校理科の指導法を知りたい場合は、教育学部の「理科教育」を履修すること。

②粒子・エネルギー分野の基本的理解を得たい場合は、教育学部の「エネルギー科学基礎」を履修すること。

③学校理科の内容と世界平和・反核、脱原発との関連を理解したい場合は、教育学部の「生活科学」を履修すること。

■科目名 教科等の指導開発研究C(図工)**■教員名** 小山 満**■授業概要**

美術教育における3人の先達の理論を学んでいきたい。はじめにアメリカの美術教育で広く知られるローウェンフェルド(V.Lowenfeld)の美術理論、子どもの絵の発達段階について、この理論が生まれる背景と、その効果を探求し、今後の指導に生かすポイントをおさえる学習をしたい。つぎにチゼック(Franz Cizek)の美術教室について学び、最後にシュタイナー(R.Steiner)の「芸術としての教育」の理論について、現代の教育に生かす方途として妥当か否かを検討する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について紹介する。 【準備学習】ローウェンフェルド(V.Lowenfeld)について調べておく。
第2回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について理解する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について調べておく。
第3回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について疑問点を出し合い検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第4回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、院生によるプレゼンを聞き、問題点を検討する。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第5回	ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階について、疑問点を纏める。 【準備学習】ローウェンフェルドの子どもの絵の発達段階の問題点を調べておく。
第6回	チゼックの美術教育について紹介する。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第7回	チゼックの美術教育について、質疑応答の記録を確認する。 【準備学習】チゼックによる美術教育の質疑応答の記録をチェックしておく。
第8回	チゼックの美術教育について院生のプレゼンで特色や優れた点を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育について調べておく。
第9回	チゼックの美術教育について行われたプレゼンの課題を明らかにする。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第10回	チゼックの美術教育について全体を纏める。 【準備学習】チゼックの美術教育と現代の関係を調べておく。
第11回	シュタイナーの芸術教育について紹介する。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について調べておく。
第12回	シュタイナーの芸術教育について優れた点を明らかにする。 【準備学習】シュタイナーの芸術教育について優れた点を調べておく。

第13回	シュタイナーの芸術教育について問題点を検討する。 【準備学習】 シュタイナーの芸術教育の問題点を調べておく。
第14回	シュタイナーの芸術教育について院生のプレゼンを聞き問題を整理する。 【準備学習】 シュタイナーの芸術教育の全体を把握しておく。
第15回	上記3人の先達の学びを振り返り纏める。 【準備学習】 上記3人の先達について振り返っておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

現実の授業でこれらの理論が応用できるか否か、管理者として必要な事項を修得する。

(現職教員)

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、具体的な手法を見出す。

◇人間教育プロフェッショナルコース

現実の授業でこれらの理論をいかに応用できるか、理論的可能性を明らかにする。

■評価方法

授業の出席状況と取り組みの姿勢、そしてプレゼンテーションの内容で判断したい。

■使用教材

V.Lowenfeld “Creative and Mental Growth” 竹内清・堀ノ内敏・武井勝雄共訳『美術による人間形成』黎明書房 1995。

W.Viola “Child Art” ヴィオラ・久保貞次郎・深田尚彦共訳『チゼックの美術教育』黎明書房 1999。

R.Steiner “Erziehungskunst Methodisch-Didaktischers” 高橋巖訳『ルドルフシュタイナー教育講座Ⅱ 教育芸術1 方法論と教授法』筑摩書房 1989。子安美知子・上松佑二『シュタイナー芸術としての教育』小学館 1988

■授業で使用する言語

日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教科等の指導開発研究C(体育)

■教員名 久保田 秀明

■授業概要

体育教科である、保健の授業と体育実技の授業について、学習者のより良い学びを引き出すための実践的な研究を行う。

本授業は、体育学の専門知識と協同学習の理念・実践を基礎にして、保健と体育実技の授業に適用し、体育教育を通して学習者を尊重する力をつけることを目的として行なわれる。

実技や受講者による模擬授業を交え、ディスカッションを通して考察を進める。野外活動の要望があれば、適宜加えることがある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	体育教育の重要性 【準備学習】学校教育法の第1条。小学校の教育課程。体育の領域。学習指導要領解説体育編をもとに、体育教育で何ができるか、何をしなければならないかを考察し、意見をまとめる。
第2回	体育教育における協同学習の理念と実践 【準備学習】能力、意見、立場の違いを学びに生かし、他者を尊重する方法について考察しまとめる。
第3回	発育発達曲線と体育指導 【準備学習】スキヤモンの発育曲線、ゴールデンエイジと体育指導の関係について考察しまとめる。
第4回	神経系と運動学習 【準備学習】運動学習を構造的に理解し、それに神経系がどう関与しているかについて考察しまとめる。
第5回	子どもの生理機能と安全な体育指導 【準備学習】発汗、体温調節、水分補給、熱中症、低体温症と体育指導について考察しまとめる。
第6回	野外活動と心の教育(1) 【準備学習】野外活動の種類、指導方法と、参加者の心理的变化について考察しまとめる。
第7回	「情報化社会」と言われる時代と身体運動 【準備学習】インターネットから得られる情報の特性と、身体運動に伴って五感をフルに使って得られる情報の特性について考察しまとめる。
第8回	能力と個性、競争と相互理解 【準備学習】能力の違いをどう生かすか、競争と勝敗をどう生かすかについて考察しまとめる。

第9回	筋の収縮様式とトレーニング効果 【準備学習】身体運動における筋活動の特性と、そのトレーニング効果について考察しまとめる。
第10回	呼吸・循環機能と全身持久力 【準備学習】呼吸・循環機能の仕組みと、全身持久力を向上させる方法について考察しまとめる。
第11回	野外活動と心の教育(2) 野外活動を小学校教育に取り入れる方法と課題、展望について考察しまとめる。
第12回	新体力テストの方法と体育指導 新体力テストの詳細を調べ、実施上の留意点と有効な実施方法について考察しまとめる。
第13回	児童・生徒の体力の現状と体育指導 今日の児童・生徒の体力の現状を調べ、それを改善する指導法について考察しまとめる。
第14回	小学校体育の領域、内容、単元指導計画、評価規準 単元指導計画と評価基準について考察しまとめる。
第15回	まとめ 全体を振り返り、問題のある点を確認する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教科の専門性を高め、教員の指導、助言をすることができる。

(現職教員)

教科の専門性を高め、学習者をより一層リスペクトする授業の実践に役立てることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校は全科であるが、ある教科に対し専門性を持っていることが求められている。

専門知識とともに、学習者を理解する眼と学習者に寄り添う力を備えることができる。

合理的でかつ学習者を徹底的に尊重する授業のデザインがイメージされ、具体的に実践することができる。

■評価方法

学習内容の理解と主体的な研究実践。活発な質疑、応答、及び協同学習への貢献度を総合的に評価する。

■使用教材

パワーポイントを使用する。必要に応じてプリントを用意する。学内外の体育施設を利用することがある。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 D(生活科・総合的学習)**■教員名** 寺林 民子**■授業概要**

本科目は、生活科と総合的な学習の時間(小学校)について、優れた教育実践について学校訪問を含む演習を通して学び、具体的な実践構想の資質を養う。生き方と問題解決のプロセスを学ぶこれらの教科は、グローバル教育や ESD(持続可能な社会と平和のための教育)の関連が深く、地球市民育成の視点を取り入れて学ぶ。国際比較の視点から、ドイツの生活科やオーストラリアの総合(小)、タイの環境学習の取材資料等から、どのように取り組まれているかについての知見と視野を広げ、小学校における生活・総合的学習の展開の可能性を追求する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースガイダンス 「生き方の探究」としての生活科、総合的学習の時間の独自性と可能性と ESD(持続可能な社会のための教育)、環境教育、グローバル教育との関連と発展。世界の教育実践の取り組みについての紹介①。 【準備学習】シラバスに目を通す
第2回	生活科と総合的学習の時間についての各人の課題の意識化 ディスカッション、各人の問題意識と科目内容の 各人の問題意識を整理してくる。 学習指導要領の動向
第3回	生活科・総合的学習の時間のとらえ方 「人生地理学—緒論」、グローバル教育とのつながり 「生き方の探究」としての生活科、総合的学習の時間の独自性と可能性と ESD(持続可能な社会のための教育)、環境教育、グローバル教育との関連と発展。世界の教育実践の取り組みについての紹介② 【準備学習】配布資料の学習とふりかえり
第4回	生活科の実践とマネジメントの実際 ・実践事例からの考察 【準備学習】資料の学習とふりかえり
第5回	生活科の実践と子どもの学び ・教師の見取りと教師の単元構想とマネジメントの実際 【準備学習】資料の学習とふりかえり
第6回	生活科の実践と子どもの学びの姿の見とり ・授業記録からの分析 【準備学習】実践資料の記録とふりかえり

第7回	教育現場での実際の授業観察 【準備学習】授業参観の事前の計画
第8回	教育現場での実際の授業観察 【準備学習】授業参観の事前の計画
第9回	総合的学習の時間とESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究① (バンコクの小学校マングローブの林の再生) 事前研究:ESD についての各人のリサーチレポート。配付資料の学習
第10回	総合的学習の時間とESD(持続可能な社会と平和のための教育) 事例研究② (日本の給食牛乳パックのリサイクル) 事前資料:自分の構想(簡略)考察
第11回	ESD から考える総合的学習の時間 各人のリサーチを元にしたディスカッション 事前資料:ESD についての各人のリサーチレポート。
第12回	外部講師による ESD の実践と考え方 【準備学習】自己の課題意識の整理と質問準備
第13回	グローバル教育の視点からの実践とその考察 事例研究③宇宙からながめる私の「生命」のつながり 【準備学習】自分の構想(簡略)と振り返り
第14回	取材授業・参観授業の協議と分析 【準備学習】授業記録の作成、ふりかえり
第15回	学習のふりかえり 【準備学習】各人の単元構想

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに学校現場における生活科教育の授業実践のマネジメントと実践研究について指導することができる。

(現職教員)

生活科、総合的学習の時間の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質並びにその展開の在り方に対する見識をもち、それらをもとに自己の実践を省察・吟味することができる。また、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

生活科教育。総合的学習の時間について、その指導目標・内容、教材、指導方法、評価などの特質に理解を深め、自分で単元構想を描き、授業実践に活用することができる。生活科を通して子

どもの学びの姿をとらえその理解を更新することができる。

■評価方法

ふり回りレポート 30 パーセント、
授業への参加意欲、プレゼン等40 パーセント、
最終レポート・授業案 30 パーセント

■使用教材

最近の生活科。総合的学習実践校資料など適宜
小学校学習指導要領解説 生活科 平成 20 年度版
小学校学習指導要領解説 総合的学習の時間 平成 20 年度版
参考図書『21世紀の学校をひらく トピック別総合学習 ドイツの教育との実践対話』(北大路書房)、「グローバル教育の理論と実践(グローバル教育学会編)、国立教育政策所研究所紀要「世界の総合学習」などその他適宜、資料配布、図書紹介

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究E（外国語活動）

■教員名 近藤茂代／三津村正和（オムニバス）

■授業概要

『小学校学習指導要領 外国語活動編』で概説されている小学校「外国語活動」の目標・内容を理解し、楽しみながら外国語活動が行えるようになることを目標とする。具体的には、小学校第5・6学年に在籍する児童が、外国語を通した①言語・文化の体験的理解、②コミュニケーションを図ろうとする能動的な態度の涵養、③コミュニケーション能力の素地の育成を図る上での先進的な学習活動について、理論・実践の両面から学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	Classroom English/ALTとの英会話表現、英語の歌・ゲーム・絵本の活用 【準備学習】英語の歌・ゲーム・絵本調べ（近藤）
第2回	連携協力校での外国語活動 模擬授業① 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第3回	連携協力校での外国語活動 模擬授業② 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第4回	連携協力校での外国語活動①(予定) 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第5回	連携協力校での外国語活動②(予定) 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第6回	連携協力校での外国語活動③(予定) 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第7回	連携協力校での外国語活動④(予定) 【準備学習】指導案の作成（近藤）
第8回	前半の振り返り／後半の目標・概要 【準備学習】振り返りの準備（近藤／三津村）
第9回	「外国語活動」の目標と実践課題 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読む。（三津村）
第10回	「外国語活動」の授業デザイン理論 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読み、課題を達成する。（三津村）
第11回	アクティブ・ラーニングでつくる「外国語活動」の授業①:タスク志向型活動 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読み、課題を達成する。（三津村）
第12回	アクティブ・ラーニングでつくる「外国語活動」の授業②:協同学習の援用 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読み、課題を達成する。（三津村）

第13回	「外国語活動」の授業展開例①:国際理解教育との融合 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読み、課題を達成する。 (三津村)
第14回	「外国語活動」の授業展開例②:プロジェクト型学習 【準備学習】使用教材②(指定ページ)と配布文献を読み、課題を達成する。 (三津村)
第15回	最終プレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。 (三津村)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補) 小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員) 小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校外国語活動の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業における積極的な参加態度、模擬授業(或は、プレゼンテーション)の実践、課題(教材・文献の精読、調べ学習、簡単なレポート記述)の達成により、総合的に評価する。

■使用教材

①文部科学省『Hi, Friends! 1・2 市販版児童用テキスト(各 95 円)・市販版指導編(各 114 円)』(2012 年, 東京書籍)、②樋口忠彦他『小学校英語教育法入門』(2013 年, 研究社, 2,000 円) ※その他、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

((日) ・ (英) ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 F(道徳)**■教員名** 石丸 憲一**■授業概要**

本科目は、子供たちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、それらを学校教育のどのような場で育てていくかを考えるとともに、道徳の時間から道徳科に変わることをどう捉え、どう授業し、どう評価したらよいかを考える場とする。いかに本音で話し合うかに重点を置いた授業づくりを考え、さらに模擬授業やプレゼンにより実践的な評価を行い、生きた指導に結びつくようにする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	「授業のねらい、授業計画の把握」 自分の中の道徳教育を振り返り、自分なりの課題をつかむ。 【準備学習】学習に期待すること、自身の道徳教育について振り返ってみる。
第2回	「道徳教育とは(特に学校教育において)」 新学習指導要領を読むことにより、道徳教育とは何か、何を求められているのかを考える。 【準備学習】学習指導要領道徳科に目を通す。
第3回	「道徳科の授業づくりのポイント」 道徳科の授業の目指すところ、目標と「見方・考え方」との関係などを捉える。 【準備学習】学習指導要領道徳科に目を通す。
第4回	「道徳科の指導過程と評価」 道徳科の授業ではどのような指導過程を考えることができるか新旧の指導案を見比べて考察する。また、評価のあり方を考える。 【準備学習】指導案を探して持参する。
第5回	「道徳科の授業づくり 1-① 道徳的価値を捉え内容項目を考える」 内容項目に当てられている道徳的価値について分析し、具体的な教材との関係を考える。 【準備学習】道徳科の指導過程について自分の考えをまとめておく。
第6回	「道徳科の授業づくり 1-② 各教材における内容項目の検討」 各教材における内容項目が他の道徳的価値とどういう関係にあるかをグループごとにプレゼンし、検討し合う。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第7回	「道徳科の授業づくり 2-① 子供の道徳的実態を捉える」 「建前」と「本音」をキーワードとして、子供の道徳的実態を考える。 【準備学習】プレゼンの振り返りをしておく。

第8回	<p>「道徳科の授業づくり 2-②各教材における道徳的実態の検討」</p> <p>各教材での子供の道徳的実態を建前と本音の関係から考えてプレゼンし、検討し合う。</p> <p>【準備学習】プレゼンの準備をする。</p>
第9回	<p>「道徳科の授業づくり 3-①課題、発問と学習活動とのマッチング」</p> <p>上記 1、2 をふまえてどのような学習課題を設定し、それをどのような学習活動にのせたらよいかを考える。</p> <p>【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。</p>
第10回	<p>「道徳科の授業づくり 3-②各教材における課題、発問と学習活動とのマッチングの検討」</p> <p>各教材での内容項目、子供の実態をふまえた学習課題、学習活動はどうあったらよいかをプレゼンし、検討し合う。</p> <p>【準備学習】プレゼンの準備をする。</p>
第11回	<p>授業づくりと模擬授業(プレゼンテーション①)</p> <p>内容項目、子供の道徳的実態、学習課題と学習活動という教材研究の3要素が三位一体となるよう授業を構想し、模擬授業をする。</p> <p>【準備学習】プレゼンの準備をする。</p>
第12回	<p>授業づくりと模擬授業(プレゼンテーション②)</p> <p>内容項目、子供の道徳的実態、学習課題と学習活動という教材研究の3要素が三位一体となるよう授業を構想し、模擬授業をする。</p> <p>【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。プレゼンの準備をする。</p>
第13回	<p>授業づくりと模擬授業(プレゼンテーション③)</p> <p>内容項目、子供の道徳的実態、学習課題と学習活動という教材研究の3要素が三位一体となるよう授業を構想し、模擬授業をする。</p> <p>【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。プレゼンの準備をする。</p>
第14回	<p>授業づくりと模擬授業(プレゼンテーション④)</p> <p>内容項目、子供の道徳的実態、学習課題と学習活動という教材研究の3要素が三位一体となるよう授業を構想し、模擬授業をする。</p> <p>【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。プレゼンの準備をする。</p>
第15回	<p>まとめと振り返り</p> <p>【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。</p>

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- 道徳教育を何のために行うのかをいろいろな視点から考える中で確立し、それを具現化する教材の扱いや授業の方法を身につける。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

○ プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、どのように若手教員にアドバイスしたらよいかを考えることができる。

(現職教員)

○ プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、よりよい道徳科の授業を作るための改善点を見出すことができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言)やプレゼンテーション、まとめのレポートを総合して評価する。

■使用教材

石丸著『ループリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

生徒指導及び教育相談に関する領域

■科目名 特別活動と生徒指導

■教員名 長島 明純 近藤 茂代

■授業概要

特別活動の意義・課題を明確にするとともに、生徒指導の今日的諸課題の理解と対応について討議する。併せて、特別活動と生徒指導、キャリア教育、道徳教育との関連についても、開発的な援助という側面を大切にしながら、受講者の問題関心に添いつつ有機的に学ぶ。テーマとして、「防災教育の現状と課題、生徒指導との関連」「児童養護施設、福祉施設等、関係諸機関との連携」なども扱う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション(自己紹介を含む)本科目の意図・内容構成、報告分担 概説①「特別活動の意義と課題」 【準備学習】「学習指導要領解説 特別活動」および「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」の特別活動の箇所を読む。
第2回	概説②「生徒指導の意義と原理」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議 【準備学習】生徒指導提要 第1章の生徒指導の意義と原理の箇所を読む。
第3回	プレゼンテーション①「よりよい人間関係づくりのための学級活動」リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】リーダーコースは所属校での標記の内容についてまとめる。 プロコースは参考図書で該当部分を読む。
第4回	プレゼンテーション②「児童会活動の現状と課題、生徒指導との関連」 「クラブ活動の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第5回	プレゼンテーション③「学校行事(運動会)の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第6回	プレゼンテーション④「学校行事(卒業式)の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第7回	プレゼンテーション⑤「防災教育の現状と課題、生徒指導との関連」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第8回	概説③「児童生徒の心理と児童生徒理解」 各グループでのディスカッション、検討を踏まえ、全体で検討・協議

	【準備学習】参考図書の該当部分を読む。
第9回	プレゼンテーション⑥「いじめ問題の現状、解決のための取組みと課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】プロコースは文献等をもとに標記の内容についてまとめる。 リーダーコースは参考図書の該当部分を読み、所属校の取組を振り返る。
第10回	プレゼンテーション⑦「不登校問題の現状、解消のための取組と課題」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第11回	プレゼンテーション⑧「キャリア教育の現状と課題、生徒指導との関連」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第12回	プレゼンテーション⑨「情報化社会における生徒指導の課題と対応」 プロコースの発表、全体で検討・協議、教員によるコメント 【準備学習】第9回と同じ
第13回	プレゼンテーション⑩「児童養護施設、福祉施設等、関係諸機関との連携」 リーダーコースの発表、全体で検討・協議 教員によるコメント 【準備学習】第3回と同じ
第14回	特別講師による講話 「児童擁護施設にかかわって(サレジオ学園)」 東京サレジオ学園長 野口重光先生特別講師による講話 その内容に基づき質疑・検討
第15回	まとめ・振り返り。 学びの発表

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について深く考察し理解するとともに、課題解決のために関係機関とも連携しながら、組織的な対応ができるよう、他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。

(現職教員)

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義など整理し理解するとともに、関係機関との連携や組織的な対応について、他の教員に自身の実践事例を踏まえ提案することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

特別活動・生徒指導に関する今日的課題(関連する道徳教育やキャリア教育も含め)について、その意義や課題を理解するとともに、それを教育現場での組織的な取り組みや関係機関との連携などに生かすことができる。

■評価方法

- (1)授業で扱う諸問題についての研究の報告。
- (2)授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3)授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

参考図書：

「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著,金子書房.2008.2484 円.

「生徒・進路指導論」吉川成司編著,創価大学通信教育部.2013.1000 円.

「生徒指導提要」文部科学省,教育図書. 2011. 376 円.

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校カウンセリングの現状と課題**■教員名** 長島 明純 高野 久美子**■授業概要**

本授業科目では、学校カウンセリングに関する演習や事例検討を中心にして、受講者の問題関心に添いながら、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、校内支援体制や関係諸機関との連携などの進め方などについても理解を深める。学校カウンセリングに関する演習では、教育的ニーズのある子どもの保護者理解・友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談などをロールプレイで体験する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	教員からの本授業科目の意図の内容構成に関する提示。子どもの症状とその意味概説。受講生の学校カウンセリングに関する問題関心について整理・共有。 【準備学習】学校カウンセリングについての問題関心を整理しておく(参考図書:石隈利紀著「学校心理学―教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房)。授業を振り返る。
第2回	カウンセリングの基本を概説。誘発線法を実際に体験し、カウンセリングにおける両者の関係性についての理解を深める。 【準備学習】カウンセリングの基本について調べておく(参考図書:佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャーズ クライアント中心療法 新版 ―カウンセリングの核心を学ぶ」有斐閣)。授業を振り返る。
第3回	傾聴についての概説とロールプレイ。相手の話を「聴かない」ロールプレイと相手の話を「聴く」ロールプレイ。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。 * 第5回の授業で検討する保護者対応の事例を各自任意で提出
第4回	教育的ニーズのある子どもの保護者理解について解説。教育的ニーズのある子どもの保護者との面談についてロールプレイを体験する。教師役・保護者役・観察者二人の4人一組で、役割を交代して実習を行う。 【準備学習】教育的ニーズのある子どもの保護者に関して調べておく(参考図書:中田洋二郎著「発達障害と家族支援―家族にとっての障害とはなにか」学習研究社)。授業を振り返る。
第5回	教育的ニーズのある児童生徒の保護者への対応について、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。 * 第7回の授業で検討する不登校の事例を各自任意で提出
第6回	「不登校」「引きこもり」について概説。 【準備学習】「不登校」「引きこもり」について調べておく(参考図書:藤岡孝志「不

	登校臨床の心理学」誠信書房、「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」厚生労働省)。授業を振り返る。
第7回	学校における「不登校」「引きこもり」への対応の在り方など、具体的な事例をもとに検討。(事例検討) 【準備学習】「不登校」「引きこもり」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。 * 第9回の授業で検討するいじめに関する事例を各自任意で提出
第8回	友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談をロールプレイで体験する。第4回と同様の手順で行う。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第9回	「いじめ」について概説。学校における「いじめ」への対応の在り方など、具体的な事例をもとに検討。(事例検討) 【準備学習】「いじめ」について調べておく(参考図書:森田洋司著「いじめとは何か―教室の問題、社会の問題」中央公論新社)。授業を振り返る。
第10回	現在の学校カウンセリングの大きな課題の一つである「非行」「暴力」について、特別講師より現在の状況など講話していただく。 【準備学習】近年の「非行」「暴力」の傾向について、国の研究調査などで確認しておく。授業の内容を振り返る。 * 第12回の授業で検討する児童虐待の事例を各自任意で提出
第11回	「児童虐待」について概説。 【準備学習】「児童虐待」について調べておく(参考図書:川崎二三彦著「児童虐待―現場からの提言」岩波書店)。本授業の内容を振り返る。
第12回	学校における「児童虐待」への対応など、具体的な事例をもとに検討。 【準備学習】「児童虐待」の事例への対応について検討しておく。授業の内容を振り返る。
第13回	関係者会議の在り方とチームシートについて概説。校内や学校外の多様な関係機関とのネットワークについても概説。 【準備学習】学校におけるチーム支援について調べておく(参考図書:石隈利紀・田村節子著「石隈・田村式援助シートによる チーム援助入門―学校心理学・実践編」図書文化社)。授業の内容を振り返る。
第14回	チームシートを活用して、事例をもとにした校内におけるチーム連携を具体的な事例をロールプレイ。(事例検討) 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第15回	学校における危機管理・危機介入の在り方について概説。これまでの授業の整理・まとめ。 【準備学習】危機管理・危機介入の在り方について調べておく(参考図書:窪田由紀他著「学校コミュニティへの緊急支援の手引き」金剛出版)。これまでの授業で

	の学びを整理しておく。本授業の内容を振り返る。
--	-------------------------

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>教育相談にあたる教員や学校に対して、専門性をもって適切に指導助言したり、関係諸機関や地域と連携した相談体制を組織したり、校内の支援体制の活用も含め学校における教育相談の進め方や関係諸機関との連携の在り方について整理することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>教育相談技能を高めるとともに、校内支援体制の活用や保護者・地域・関係機関との連携を視野に入れた教育相談の在り方について考察し理解を深めことができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>教育相談の基礎的な内容や方法、校内支援体制の活用や関係諸機関との連携などについて理解と習得を深め、現場で主体的に実践することができる。</p>

■評価方法

<p>(1)授業の中での・演習・事例検討・ディスカッションなどへの参画状況。</p> <p>(2)学校カウンセリングに関する諸問題についてのレポートの充実度。</p>

■使用教材

<p>※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。</p>

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別支援教育の現状と課題**■教員名** 長島 明純 藤原 義博**■授業概要**

・本授業科目では、『きみは・・・』との受講者自身への問いかけにより、特別支援教育の現状と課題に迫る。それによって、自らの課題意識や現実の課題に添いながら障害観を育み、学校現場での特別支援教育の実践力を身につける。

・世界的障害観の動向から、我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れなど、基本的な特別支援教育に関する知識を基に、課題解決の視点から、教育学や心理学等の知見を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	『きみは、特別支援教育から何を学ぶか？』オリエンテーション ・教員からの本授業科目の目的と内容について提示し、受講者より「特別支援教育」に関する関心について表明。(発表担当決定) ・受講者の関心や課題意識について意見交換し、整理・共有。(グループ討議・発表) 【準備学習】特別支援教育に関する関心について整理しておく。
第2回	『きみの知っている気にかかる子は？』 ・自らの経験等を通して、通常学級に在籍する障害児、特別支援学級や特別支援学校等に在籍するさまざまな障害児、書籍や各種メディア等に登場する障害児(者)等について発表。 ・課題とその解決について意見交換し、考察・整理。(グループ討議) 【準備学習】これまで出会った気にかかる子について振り返り、課題について整理しておく。
第3回	『きみは、特殊教育から特別支援教育の流れを理解しているか？』 ・世界的障害観の動向から、我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れを捉え、現在の「特別支援教育とは何か？」と条約・法規、基礎知識を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育への流れの概要を学んでおく。
第4回	『きみは、特別支援学校・特別支援学級を知っているか？』 ・特別支援教育の理念・目的から、学習指導要領を基に、特別支援学校・特別支援学級の教育目的、教育課程、指導内容を確認・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】特別支援教育に関する学習指導要領について学んでおく。
第5回	『きみは、特別支援教育コーディネーターができるか？』 ・特別支援教育コーディネーター・学級担任等の役割(個別指導計画作成、関

	<p>係機関との連携等)の考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】特別支援教育コーディネーターの役割について学んでおく。</p>
第6回	<p>『きみは、特別支援教育の現状と課題を知っているか?』</p> <p>・これまでの本授業での学びを基に、現職教員より経験に基づく現場の話聞き、自らの考えを整理・深化。(グループ討議)</p> <p>【準備学習】第1回から5回までの本授業での学びを整理しておく。</p>
第7回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動・教育支援を正しく理解できているか?』</p> <p>・応用行動分析学を基盤に、障害のある子どもの行動上の問題の理解と包括的な教育的支援、授業づくりの在り方の要点を学ぶ。</p> <p>【準備学習】応用行動分析学の概要を学んでおく。</p>
第8回	<p>『きみは、障害のある児童生徒の行動を正しく理解できているか?』</p> <p>・発達障害のある児童生徒事例について、“困った”行動の機能分析とそれを基にした教育的支援などを考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の行動問題への支援事例を学んでおく。</p>
第9回	<p>『きみは、LD や ADHD の児童を指導できるか?』</p> <p>・LD や ADHD の児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】LD や ADHD の児童について学んでおく。</p>
第10回	<p>『きみは、自閉症スペクトラムの児童の指導ができるか?』</p> <p>・自閉症スペクトラムの児童事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備等、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】自閉症スペクトラムの児童について学んでおく。</p>
第11回	<p>『きみは、発達障害児への各発達段階での援助ができるか?』</p> <p>・乳幼児期の発達障害と援助を中心に、学童期・青年期以降の発達障害への援助についても考察・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児の発達段階に応じた援助を学んでおく。</p>
第12回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか? 1』</p> <p>・発達障害児への「分かって動ける授業づくり」(支援環境、支援ツール等)を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】「分かって動ける授業づくり」について学んでおく。</p>
第13回	<p>『きみは、発達障害児への授業がつくれるか? 2』</p> <p>・授業における発達障害のある児童生徒への個別的・集団的支援の工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。</p> <p>【準備学習】発達障害児への個別的・集団的支援について学んでおく。</p>

第14回	『きみは、発達障害児への授業がつくれるか？ 3』 ・発達障害児への学習プロセス(単元学習、授業展開等)における工夫を検討・整理。院生によるプレゼンテーション。 【準備学習】発達障害児への学習プロセスについて学んでおく。
第15回	『きみは、これまでの学びを学校現場でどのように活かすのか？』 ・これまでの講義内容を整理・考察し、今後の学校教育現場で果たすべき自らの役割の在り方を整理・考察。 【準備学習】本授業での学びを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・特別支援教育に関する今日的課題について深く理解考察することができる。
- ・発達障害児等への対応、校内支援体制づくりや関係諸機関との連携等について、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。

- ・特別支援教育コーディネーターとして、発達障害児等への対応、校内支援体制の活用、関係諸機関との連携等ができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・発達障害等の適切な対応ができる。授業や生徒指導で活用することができる。

■評価方法

- (1) 特別支援教育に関する諸問題についての研究の報告
- (2) 授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3) 授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

- ・「教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド」(藤原・平澤 編著), 学苑社, 2011, 1728 円.
 - ・「特別支援教育における授業づくりのコツーこれならみんな分かって動ける」(藤原 監修・著), 学苑社, 2012, 3024 円.
- ※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 子どもの人権を保障する学校文化の形成**■教員名** 三津村 正和**■授業概要**

「いじめ防止対策推進法」(2013年9月28日施行)が制定されてもなお、いじめを苦に自らの命を絶つ子どもは後を絶たない。いじめは、一部の学級、学校だけで起こっている問題と捉えてはならない。教育に携わる全ての者が、その解決に向けて主体的・協働的に取り組むべき最重要課題である。しかしながら、いじめ解決に向けた意識は、必ずしも全国的な拡がりや深化を見せているわけではない。

本科目の授業者は、いじめ予防を学校教育の中心課題に据えるべきだという強い主張を続けてきた。「いじめは小さな戦争である」との言葉にあるように、いじめは、一人ひとりの心に「平和の砦」を丹念に築いていく以外に根本的な解決はない。一方、子どもがいじめを苦に自らの命を絶つという事態を一刻も早く学校教育から排除せねばならない。そのためには、教師にはいじめをいじめと見抜く知識・感性に磨きをかけることが求められ、また、いじめを予防するにあたっての組織的な対応、また学校変革論にも精通する必要がある。本科目の受講者は、ハードな読書量を強いられることになるが、それは、ひとえにいじめ予防のエキスパートになるための挑戦と受け止め、大いなる気概を持って受講してもらいたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	いじめ問題の現状と課題、「いじめ防止対策推進法」重要条文の解説、受講者の関心事 【準備学習】いじめ問題に関する各々の関心事をまとめてくる
第2回	人間教育といじめ①:人間教育はいじめを解決するのか(中嶋)? 【準備学習】中嶋博之『君を守りたい』(前半)を読み、討論に備える。
第3回	人間教育といじめ②: いじめは教育問題であるのか(中嶋)? 【準備学習】中嶋博之『君を守りたい』(後半)を読み、討論に備える。
第4回	人間教育といじめ③: いじめは何故生まれるのか? 【準備学習】重松清『青い鳥』(映画)を見て、討論に備える。
第5回	いじめの要因分析①:いじめとは何か? 【準備学習】森田洋司『いじめとは何か』(前半)を読み、討論に備える。
第6回	いじめの要因分析②: いじめ加害行為にどう対峙するのか? 【準備学習】内藤朝雄『いじめ加害者を厳罰にせよ』を読み、討論に備える。
第7回	いじめの要因分析③:学校という空間が生み出すいじめとは? 【準備学習】竹川郁雄『いじめ現象の再検討:日常社会規範と集団の視点』(指定頁)を読み、討論に備える。
第8回	いじめの4層構造①:被害者と傍観者のエンパワーメント 【準備学習】山脇由貴子『教室の悪魔』(前半)及び指定文献を読み、討論に備える。
第9回	いじめの4層構造②:加害者と聴衆の心理 【準備学習】山脇由貴子『教室の悪魔』(後半)及び指定文献を読み、討論に備える。

	る。
第10回	いじめの解決に向けて①:いじめへの歯止めをいかに構築するのか？ 【準備学習】森田洋司『いじめとは何か』(後半)を読み、討論に備える。
第11回	いじめの解決に向けて②:日本のいじめ予防プログラム 【準備学習】指定文献を読み、討論に備える。
第12回	いじめの解決に向けて③:世界のいじめ予防プログラム 【準備学習】指定文献を読み、討論に備える。
第13回	いじめ予防プログラムの設計・開発① 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第14回	いじめ予防プログラムの設計・開発② 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第15回	総括的討議 【準備学習】総括的討議に備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

いじめ予防を志向する学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

(現職教員)

いじめ予防を志向する学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動等の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

いじめ予防を志向する学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業への参加態度、課題文献の精読、リフレクションジャーナルの記述、プレゼンテーションにより、総合的に評価する。

■使用教材

①中嶋博行『君を守りたい:いじめゼロを実現した公立中学校の秘密』(2006年,朝日新聞社)、②森田洋司『いじめとは何かー教室の問題、社会の問題』(2010年,中央公論新社)、③内藤朝雄『いじめ加害者を厳罰にせよ』(2012年,ベストセラーズ)、④竹川郁雄『いじめ現象の再検討ー日常社会規範と集団の視点』(2006年,法律文化社)、⑤山脇由貴子『教室の悪魔:見えない「いじめ」を解決するために』(2006年,ポプラ社)、※他、適宜プリントを配布する。なお、②と④は受講者に購入が求められる(初回に説明する)。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

学級経営及び学校経営に関する領域

■科目名 教育行政・学校経営の現状と課題

■教員名 井上 伸良 近藤 茂代

■授業概要

教育行政・学校経営における重要な各テーマについて、その概要と現状における課題の報告、関連する判例紹介・検討という2つの角度から履修者(各回2名)に報告してもらい、討議する。また、教職としての実践力の向上に資する視聴覚教材の鑑賞、行政職員や校長等の講義も予定している。なお、ゲストスピーカーの都合により、授業の一部について、日時が変更・延長するなど、変則的となる可能性がある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 【準備学習】シラバスを確認し、自分が学びたい内容を明確にする。
第2回	学校事故とその防止対策について 【準備学習】どのような事故が起こっているのかについて調べておく。公立学校と私立学校の違いについても調べておくことが望ましい。
第3回	いじめ防止対策について 【準備学習】いじめ防止対策推進法、「いじめ防止等のための基本的な方針」(文部科学大臣決定)を確認しておくこと。
第4回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について①社会調査からの示唆 【準備学習】スマートフォンに関する社会調査を1つ調べてくること。
第5回	インターネット、スマートフォンの使用や問題について② 「心理療法カウンセリング講座」DVDの視聴等を基にした討議 【準備学習】スマートフォンに関する社会調査をもう1つ調べてくること。
第6回	個人情報保護について 【準備学習】個人情報保護法に目を通してくること。
第7回	著作権について 【準備学習】著作権法に目を通してくること。
第8回	学校経営の現状と課題について(学校経営方針、校務分掌組織の検討) 【準備学習】学校の経営方針について事例を収集すること。
第9回	教育行政の現状と課題について(在勤・在住の教育委員会組織の検討) 【準備学習】自治体の教育委員会の概要について事例を集めておくこと。
第10回	家庭教育の現状と課題について 【準備学習】統計データを調べ、各自の問題意識を明確化
第11回	家庭裁判所調査官による離婚紛争の子どもへの影響に関する講義 【準備学習】家庭裁判所調査官の職務について調べておくこと。

第12回	障がい児専門医による障がい児教育のあり方 【準備学習】特別支援学校小学部・中学部学習指導要領を読んでくること。
第13回	小学校・中学校における特別支援教育の課題 【準備学習】第12回と同じ。
第14回	履修者による教育行政・学校経営への提言① 【準備学習】各自が考える課題と解決策について発表準備を行うこと。
第15回	履修者による教育行政・学校経営への提言② 【準備学習】前回の発表を確認しておくこと。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題とされている内容、近時の議論)について理解を深める。また、学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題とされている内容、近時の議論)について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表中の態度40%、授業参加の貢献度40%、提出物(レポート等)20%で評価。

■使用教材

佐藤晴雄『教職概論』『現代教育概論』学陽書房を一応の基本参考図書とする。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学級のデザインと子ども同士の関係づくり**

■教員名 **田村 修一 関田 一彦**

■授業概要

前半は、日本における様々な学級経営論の概要および変遷について学び、それをふまえて現在の学級経営の課題を把握する。後半は、現代の学級経営に必要な「学級集団アセスメント」および「学級経営コンサルテーション」の理論と技法について演習（グループ学習）を通して学ぶ。さらに「学級経営」と「子ども同士の関係づくり」に活用できそうな心理学や協同学習分野の理論、新しい教育実践事例にふれ、より良い学級経営のための具体的実践的方法について研究を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本科目の概要と授業の進め方・評価方法についての説明>、受講者各自の本科目における「学習目標の設定」とシェアリング 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	日本の学校における学級経営の原理・方法 <主な学級経営論の変遷> (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	日本における学級経営の現代的課題(1) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第4回	日本における学級経営の現代的課題(2) ★(学生によるプレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第5回	「マネジメント」の観点から学級経営を考える (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	学びの中間振り返り および 今後の学習についての再検討 【準備学習と復習】 これまでの学びを自己評価し、中間振り返りシートを作成する。
第7回	学級集団の育成(1) 学級集団のアセスメント:Q-Uの活用 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	学級集団の育成(2) 学級経営コンサルテーション(K-13法)① (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	学級集団の育成(3) 学級経営コンサルテーション(K-13法)② (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	学級集団の育成(4) 学級経営コンサルテーション(チーム会議)① (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	学級集団の育成(5) 学級経営コンサルテーション(チーム会議)② (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第12回	子ども同士の関係づくり(1) 「学級力向上プロジェクト」の活用

	★(学生によるプレゼン)
	【準備学習と復習】 プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第13回	子ども同士の関係づくり(2)「写真コラージュ法」の活用 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	子ども同士の関係づくり(3)「プロジェクト・アドベンチャー」の活用 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	子ども同士の関係づくり(4)「クラス会議」の活用および学びの最終振り返り 【準備学習と復習】 リフレクションペーパー作成。今までのすべての学びをポートフォリオにまとめ、発表の準備をする。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学級経営に関する基本理論と技法を身につけ、学校内の全教員に対して、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について指導・助言ができる。

(現職教員)

学級経営に関する基本理論と技法を身につけ、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について、同僚教員に適切な助言をすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

安定した学級経営ができるための基本理論と技法を身につける。

■評価方法

①「プレゼンテーション」、②「ポートフォリオ」、③「課題レポート」により総合的に評価する。

■使用教材

「日本の学級集団と学級経営」 河村茂雄 著 図書文化 2010年
「アクティブラーニングを成功させる学級づくり」 河村茂雄 著 誠信書房 2017年
「QUによる学級経営スーパーバイズ・ガイド」 河村茂雄他 著 図書文化 2004年
「集団の発達を促す学級経営」 河村茂雄他 著 図書文化 2012年
「学級力向上プロジェクト」 田中博之 編著 金子書房 2014年
「教師のためのクラス・マネジメント入門」 岡本 薫 著 日本標準 2008年
「先生のためのアドラー心理学」 赤坂真二 著 ほんの森出版 2010年
「赤坂版『クラス会議』完全マニュアル」 赤坂真二 著 ほんの森出版 2014年
「クラスの力を生かす:教室で実践するプロジェクト・アドベンチャー」プロジェクト・アドベンチャー・ジャパン 著 みくに出版 2013年

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教員研修実務研究

■教員名

若井 幸子 近藤 茂代

■授業概要

教員研修の歴史・目的・内容・方法・運営・評価に関する理論と技法を講義と演習を通して学び、各種教育委員会(東京都・八王子市)が主催する教員研修会の実務経験を通し教員研修に関する学びを深める。リーダーコースは所属校での経験を生かす研修とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 本授業の概要と進め方 評価方法についての説明 教員研修の歴史
第2回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討① (講義・討議) 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第3回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討② (講義・討議・提案) 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第4回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討③ (講義・討議・提案) 【準備学習】所属校の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第5回	八王子市教育委員会における研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第6回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討④ (講義・討議・提案) 【準備学習】所属稿の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第7回	東京都教職員研修センターにおける研修事業の概要 (ゲスト講師による講義)
第8回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑤ (講義・討議・提案) 【準備学習】所属稿の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第9回	八王子市教育センターにおいて実務研修① 復習:研修記録を書く
第10回	教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑥ (講義・討議・提案) 【準備学習】所属稿の校内研修・資料をまとめる 復習:振り返りをまとめる
第11回	八王子教育センターにおける実務研修② 【準備学習】復習:研修記録を書く
第12回	八王子教育センターにおける実務研修③ 復習:研修記録を書く
第13回	東京都教職員研修センターにおける実務研修① 研修記録作成 校内研修(案)の作成
第14回	東京都教職員研修センターにおける実務研修② 研修記録作成 校内研修(案)の作成

第15回	東京都教職員研修センターにおける実務研修③ 研修記録作成 校内研修(案)の作成
-------------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

校長・副校長・指導主事として総合的な立場から教員研修を計画し、運営する能力を身につける。

(現職教員)

スクールリーダーとして、同僚教師達の実践的指導力を高められる校内研修を計画し、運営する能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教員研修の目的・内容・方法・運営・評価について理解し、校内研修を計画・運営するための基礎的スキルを身につける。

■評価方法

毎回の授業の参加態度、リアクションペーパー、校内研修案や討議、プレゼン、学期末レポートなどを通して総合的に評価する。

■使用教材

『教師改革のゆくえ』 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編 創風社 2006年
『研修の効果的な運営のための知識・技術(3訂版)』 独立行政法人教員研修センター編 2001年

その他 必要に応じて提供する

教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 生涯学習・国際化・情報化社会における学校と教員の役割

■教員名 坂本 辰朗／鈴木 詞雄／三津村 正和（オムニバス）

■授業概要

現代の学校と教員の役割が、生涯学習・国際化・情報化社会の進展に伴い、どのように変容しつつあるかについて認識すること、さらにその変容に適切に対応するためには、学校と教員はどのような課題を解決していくべきかを理解する。本コースには討議・発表など種々の授業形態が組み込まれているが、その詳細については第1回目のオリエンテーションで説明する。なお、本年度は、国際化・情報化社会における教育課題を中心に実施する予定である。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション (坂本／鈴木／三津村)
第2回	多文化教育①:日本で生きる多文化の子ども 【準備学習】文献を読み、課題を達成する。(三津村)
第3回	多文化教育②:世界に目を向ける 【準備学習】文献を読み、課題を達成する。(三津村)
第4回	多文化教育③:子どもの人権 【準備学習】文献を読み、課題を達成する。(三津村)
第5回	多文化教育④:「世界市民」とは？ 【準備学習】発表に備える。(三津村)
第6回	国際理解教育①:国際理解教育の理論 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(鈴木)
第7回	国際理解教育②:国際理解教育の現状 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(鈴木)
第8回	国際理解教育③:国際理解教育の実践① 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(鈴木)
第9回	国際理解教育④:国際理解教育の実践② 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(鈴木)
第10回	国際理解教育⑤:国際理解教育の課題 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(鈴木)
第11回	国際化・情報化社会における教育課題① 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(坂本)
第12回	国際化・情報化社会における教育課題② 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(坂本)
第13回	国際化・情報化社会における教育課題③ 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。(坂本)

■科目名

子ども理解・保護者理解

■教員名

田村 修一

■授業概要

日々の教育実践の中で、教師が自らの「人間観」「子ども観」「教育観」について考えを深めていくことは大変重要である。また、教師には児童生徒や保護者の援助ニーズを的確につかみ、効果的な指導・援助ができる技術(スキル)も必要である。このような児童生徒や保護者に対する「アセスメント能力」や「指導・援助のスキル」の向上に役立つ学問として「学校心理学」がある。そこで、本科目は「学校心理学」の理論と技法の学習を基盤として、児童生徒や保護者に対する「アセスメント能力」を高め、賢いアセスメントに基づいた「心理・教育的援助サービス」を学校において十分に展開できる実践的能力を培う授業とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本科目の概要と授業の進め方、評価方法についての説明>、本科目における「学習目標の設定」、心理学の観点から「現代の子どもたちの育ち」について考える (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学校心理学概論(1) 児童生徒の理解 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	学校心理学概論(2) 児童生徒に対する指導援助 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	教師自身のアセスメント(1) 「人間観」「子ども観」「教育観」の省察 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	教師自身のアセスメント(2) 教師と児童生徒の人間関係(RCRT) (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第6回	教師自身のアセスメント(3) 教師のためのアンガー・マネジメント (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	教師自身のアセスメント(4) 教師のメンタルヘルス・マネジメント (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	児童生徒のアセスメント(1) 「リフレーミング」の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	児童生徒のアセスメント(2) 「描写レビュー」の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	児童生徒のアセスメント(3) 「知能検査(WISC-IV)」の活用 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。
第11回	児童生徒のアセスメント(4) 「知能検査(DAM)」の活用 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。

第12回	児童生徒のアセスメント(5)「描写テスト(バウムテスト)」の活用 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。	(演習)
第13回	保護者のアセスメント(1)「エゴグラム」の活用(保護者の養育観) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。	(演習)
第14回	保護者のアセスメント(2)「保護者からの苦情」の理解と対応(1) 理論編 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。	(講義)
第15回	保護者のアセスメント(3)「保護者からの苦情」の理解と対応(2) 対応編 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習の振り返り。	(演習)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

児童生徒や保護者をより良く理解し、効果的な指導・援助を行うために学校心理学の基礎的理論と技法を習得する。また、児童生徒や保護者の様々な考えや思い・学校への要望に対する柔軟な対処能力を身につけ、保護者とのより良い関係づくりの技能も併せて習得し、学校内の教職員に適切に指導・助言できるようになる。

(現職教員)

児童生徒や保護者をより良く理解し、効果的な指導・援助を行うために学校心理学の基礎的理論と技法を習得する。また、児童生徒や保護者の様々な考えや思い・学校への要望に対する柔軟な対処能力を身につけ、保護者とのより良い関係づくりの技能も併せて習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

児童生徒や保護者をより良く理解できる能力や感受性を培い、学校心理学の基礎的理論と技法の習得、ならびに保護者の学校への要望に対して柔軟に対応できる技能を習得する。

■評価方法

①「授業や演習への参加態度」、②「小テスト」、③「課題レポート」により総合的に評価する。

■使用教材

「よくわかる学校心理学」水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著
ミネルヴァ書房 2013年

「教師教育学:理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ」フレット・コルトハーヘン著(武田信子・今泉友里 訳) 学文社 2010年

「生涯学習の中のカウンセリングⅡ:子どもと学校を援助するカウンセリング」石隈利紀・藤生英行・田中輝美 編 サイエンス社 2013年

「描写レビューで教師の力量を形成する:子どもを遠くまで観るために」M. ヒムレイ・P.F.カリーニ編(小田勝己・小田玲子・白鳥信義 訳)ミネルヴァ書房 2002年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間的成長に関する理論と実践**■教員名** 長島 明純**■授業概要**

人間的成長に関する発達心理学や精神分析等の知見、描画などを使った自己理解を深める演習等の学びを通して、児童生徒やその保護者への理解を深めると共に、教員としての自らの生き方・在り方についても検討する。特別講師による、箱庭のアイテムを使った「自己成長と気づき」の演習なども含めて、各々の人間観・教育観を深めながら、現在の学校教育の課題を克服するための方途を探る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	授業のねらいや全授業の流れ、進め方等オリエンテーションする。本授業に関する受講者の関心や課題意識について意見を表明してもらい。人と人との‘間’に生きている人間の特性や自己理解と他者理解の関係など、個人の無意識や集団の無意識も含め概説する。その際、精神析の投影や取り入れ、巻き込み等の知見等も紹介する。学校における児童生徒や教職員の集団づくりについて検討する 【準備学習】本授業に関する関心や問題意識を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第2回	家と木と人を描く HTP 法で絵を描く。演習を通して、演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第3回	発達心理学の知見を参考にしながら、私の成立に関係する一者の世界、二者の世について概説する。外的対象と内在化、内的対象と対象恒常性等の精神分析の知見も紹介し、私の成立に関する視点を豊かにする。世代間伝達等生涯を通じた親子の相互作用についても紹介する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第4回	誘発線を使って、相互に絵を描き、その描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。この過程を、順序を交替して数回繰り返す。演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第5回	基本的信頼関係と愛着、自立と依存の問題を、発達心理学や精神分析の母子相互作用やグッドイナフマザー等の知見を紹介しながら概説する。分析心理学の元型の概念に関連する母なるもの・父なるものや内なる子ども等の知見も紹介する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。

<p>第6回</p>	<p>相互なぐり描き法（一人が紙になぐり描きをし、続いてもう一人が、そのなぐり描きの線から連想した絵を描き、その描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。この過程を、順序を交替して数回繰り返す。演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第7回</p>	<p>私の成立に関係する三者の世界について、情動の共有、情動的コミュニケーションと知的コミュニケーション、共同注視、世界の敷き写し等の発達心理学の知見を紹介しながら概説する。移行対象や自閉対象等の精神分析の知見も紹介しながら、私の成立に関する視点を豊かにする。本授業の知見等参考にしながら自閉的な児童生徒への支援について検討する。</p>
<p>第8回</p>	<p>風景構成法（川や山等の風景のアイテムを指示された順番に描いていく）の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第9回</p>	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第10回</p>	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第11回</p>	<p>人間の脳の特性について、記憶と忘却を中心に概説する。心的外傷ストレスについても紹介する。これまでの授業を踏まえ、今後の学校教育でどのような工夫が必要なのか、そのために教員自らの在り様について、どのような配慮が大切なのか等検討し整理する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第12回</p>	<p>コラージュ法（自分で選んだ雑誌や広告等から写真や絵等を切抜き、台紙に貼る）と相互コラージュ法（自分が選んだ雑誌や広告等から、自分がほしいだろうと思う写真や絵等を相手が選ぶ。その選んできた切抜きの幾つかを台紙に貼る。）の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。コラージュ法で使う雑誌等を集めておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第13回</p>	<p>分析心理学のシャドーや個性化等の知見を紹介しながら検討し、人間的成長についての視点を豊かにする。嫌なものの処理に関する、精神分析の防衛や抑圧や乖離等の知見も紹介し、人間的成長に関する理解を深める。 【準備学習】自分にとって苦手なものについて整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>

第14回	合同箱庭法の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】 前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第15回	本授業を通しての各々の学びを報告し合い、今後に向けて検討する。 【準備学習】 全授業を振り返り、ここでの学びを整理しておく。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解を深めるとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を深く考察し、現場の対応について他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。 <p>(現職教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、他の教員に対して提案することができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を適切に考察し、現場の対応について他の教員に提案したり助言したりすることができる。 <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間的成長に関する諸課題について理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言等に生かすことができる。 ・人間的成長という視点から教育実践等を考察し、現場の対応に適切に生かすことができる。

■評価方法

<p>(1)授業の中での質問・協議への参画状況。</p> <p>(2)人間的成長に関する諸問題についての講義や協議(ワークショップ)を踏まえたレポートの充実度。</p>
--

■使用教材

<p>参考図書</p> <p>小此木啓吾・河合隼雄著『フロイトとユング』(講談社学術文庫)、講談社、886円。</p> <p>三木成夫著『生命とリズム』(河出書房新書)、河出書房新社 918円。</p> <p>浜田寿美男著『「私」とは何か』(講談社選書メチエ)、講談社、1944円。</p> <p>河合隼雄『河合隼雄のカウンセリング入門—実技指導をとおして』創元社 1620円。</p> <p>河合隼雄『カウンセリングの実際問題 岩波現代文庫』岩波書店 1339円。</p> <p>※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。</p>

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教員の服務等と教育法規**■教員名** 井上 伸良**■授業概要**

地方公務員法、教育公務員特例法などに規定される教員の服務に関連する条文規定について、判例の検討を行う。実際の事案を通して、教員として起こりうる服務上の法的な問題点について自覚を深められるようにしたい。履修者に30分程度で報告してもらい討議する。なお、判例に関しては、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、「判例時報」「判例タイムス」などにあたるとよい。ウェブ上での判例検索システムが活用できる判例もある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	① 授業計画の説明・質疑、履修者自己紹介、報告分担 ② 科目テーマに関する目標の明確化、要望提出 【準備学習】シラバスを確認し、この科目で自分が学びたい内容を明確にするとともに、関心のあるテーマの判例を探しておくこと。
第2回	宗教的中立性について 【準備学習】日本国憲法第20条、教育基本法第15条を判例含め確認。
第3回	政治的中立性について 【準備学習】教育基本法第14条を判例含め確認。
第4回	政治的行為の制限について 【準備学習】政治的行為（人事院規則14-7）を確認。
第5回	信用失墜行為の禁止について 【準備学習】教員の信用失墜行為を特集した教育雑誌記事等を調べておく。
第6回	職務専念義務について 【準備学習】地方公務員法第32条関連の判例を複数確認しておく。
第7回	争議行為の禁止について 【準備学習】事例を調べておく。
第8回	生徒指導（体罰禁止）について 【準備学習】体罰に関する最近10年の文部科学省通知を確認しておく。
第9回	生徒指導（注意義務違反が問われた事案・学校事故）について 【準備学習】学校事故の種類および賠償責任の傾向について確認しておく。
第10回	職務命令に従う義務について 【準備学習】いわゆる「日の丸・君が代問題」について調べておく。
第11回	秘密を守る義務について 【準備学習】教員（OB）として問題となった事案について調べておく。
第12回	部活動の指導について 【準備学習】部活動指導にかかる勤務実態について調べておく。

第13回	兼業の制限について 【準備学習】地方公務員法第38条の判例を確認しておく。
第14回	法令に従う義務について 【準備学習】公務員の不祥事にかかる懲戒事例やその基準について調べておく。
第15回	まとめ 【準備学習】授業内容を見直して臨むこと。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補) 学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。学校現場で発生しうる法的トラブルについて判例を通して理解する。</p> <p>(現職教員) 上記に同じ。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース 学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状(問題点とされている内容、近時の議論)について理解を深める。</p>
--

■評価方法

発表資料や発表中の態度 40%、授業参加の貢献度 40%、提出物(レポート等) 20%で評価。

■使用教材

『解説教育六法』三省堂(できるだけ新しい年度のものを持参すること)。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育実践研究方法 I**
 ■教員名 **寺林 民子 / 田村 修一 / 三津村 正和 (オムニバス形式)**

■授業概要

本科目は、教育実践を対象とした研究法の習得を目的とする。具体的には、①教育実践研究の中核とも言える授業分析法(授業分析のねらい・原理・観察法・記録の整理・分析の手順など)、②量的研究法(主に調査研究法、実験研究法)、③質的研究法について、講義や演習を通してその概要を学ぶ。これらの学びを通して、自らの教育実践をきちんと研究的視点から省察できる力量を培う授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本科目の概要と授業の進め方、評価方法についての説明>、「教育実践研究」に関する問題提起(全担当教員から) 【準備学習と復習】事前にシラバスを読んでおく。(寺林・田村・三津村)
第2回	教育研究と教師の自立 (寺林1) 授業研究の目的と 手法の特色 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第3回	授業研究と授業分析(1) (寺林2) 授業分析のねらいと原理、 【準備学習と復習】事前に資料を読み、講義内容の振り返り。
第4回	授業研究と授業分析(2) (寺林3) ① 授業分析の方法と手順 ② 論文の研究事例からの考察 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。課題の整理。
第5回	授業研究と授業分析(3) (寺林4) 演習① 【準備学習と復習】事前に資料を読み込み分析する。課題の整理。
第6回	授業研究と授業分析(4) (寺林5) 演習② 授業分析のための資料収集と準備 【準備学習と復習】事前に資料を読み込み分析する。講義内容の振り返り。
第7回	教育実践研究とは：①研究と研修の相違 ②教育学研究と教育実践研究の相違 ③「サイエンティスト・プラクティショナーモデル」 ④質的研究と量的研究の相違 ⑤先行研究レビューの重要性 (田村1) 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第8回	調査研究法(1) (田村2) ①質問紙調査とインタビュー調査 ②調査研究のプロセス 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。

第9回	調査研究法(2) ① 尺度構成 ②尺度の信頼性と妥当性 ③量的分析の仕方 (田村3) 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第10回	実験研究法 ① 実験デザイン ②実験研究のプロセス ③量的分析の仕方 (田村4) 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第11回	「量的研究法(実験研究・調査研究)」を用いた論文の書き方 ① 論文の条件 ②論文の構造と書き方 ③統計の記述の仕方 (田村5) 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第12回	研究倫理:①研究倫理の基本的考え方 ②「創価大学人を対象とする研究倫理審査申請書」の概要説明 【準備学習と復習】配布資料を読み、課題を達成する。(三津村1)
第13回	質的研究(1):質的研究のデザイン ① 質的研究とは ②研究の着想から記述まで 【準備学習と復習】教材と配布資料を読み、課題を達成する (三津村2)
第14回	質的研究(2):質的データの収集 ① 質的インタビュー調査の特徴と方法 ②半構造化インタビュー 【準備学習と復習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。(三津村3)
第15回	質的研究(3): 質的研究例 ① エスノグラフィー ②参与観察 【準備学習と復習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。(三津村4)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得するとともに、他の教職員に適切に教育実践研究に関する指導・助言ができる。

(現職教員)

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得する。

■評価方法

①毎回の授業への参加態度と②課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【寺林 担当】

『授業分析の方法』重松鷹泰 明治図書 1976年

『授業記録による授業改革のプロセス:東海市小・中学校教師の挑戦』名古屋大学・
東海市教育委員会教育実践問題支援プロジェクト編 黎明書房 2004年

『授業の研究—子どもの思考を育てるために』富山市立堀川小学校 重松鷹泰 著
明治図書 1959年

『子どもの学びと自己形成』富山市立堀川小学校 著 明治図書 2006年

『授業の研究 教師の学習』秋田喜代美 キヤサリン・ルイス 著 明石書房 2008年

【田村 担当】

『心理学マニュアル質問紙法』鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998年

『質問紙調査と心理測定尺度』宮本聡介・宇井美代子 編 サイエンス社 2014年

『社会科教育学研究法ハンドブック』草原和博・溝口和宏・桑原敏典 編著 明治図書 2015年

【三津村 担当】

『質的研究実践ノート—研究プロセスを進める clue とポイント』萱間真美 著
医学書院 2007年(2,376円)

『子どもエスノグラフィー入門—技法の基礎から活用まで』柴山真琴 著
新曜社 2006年(2,052円)

※ 他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育実践研究方法Ⅱ(A)**

■教員名 **田村 修一 鈴木 詞雄**

■授業概要

本科目では、前半は主な量的分析法の理論・手法を統計解析ソフト(SPSS)の演習を通して学ぶ。後半は、各自の教職課題研究論文に関する収集データを用いて、統計分析を実際に行う(個別指導)。尚、希望があれば「多変量解析(因子分析など)」も指導する予定である。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <本科目の概要と授業の進め方、評価方法の説明> 受講者の「教職課題研究論文」のテーマと進捗状況の確認(1)(講義・討議) 【準備学習と復習】 シラバスおよび事前に配布される資料を読んでおくこと。
第2回	統計学の基礎 ①記述統計と推測統計 ②統計の基礎用語の理解(講義) ③仮説検定とは ④主な統計分析法の紹介 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第3回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(1) データ入力と加工 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第4回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(2) ① χ (カイ)二乗検定 ②相関分析 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第5回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(3) ① t検定 ②一要因分散分析 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第6回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(4) (※受講者の希望があれば実施する) ① 二要因分散分析 ②重回帰分析 ③因子分析 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第7回	受講者の「教職課題研究論文」のテーマと進捗状況の確認(2) (討議) 【準備学習と復習】 自分の研究の進捗状況報告メモを用意しておく。
第8回	データ処理(個別指導)(1) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第9回	データ処理(個別指導)(2) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第10回	データ処理(個別指導)(3) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第11回	データ処理(個別指導)(4) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。

第12回	データ処理(個別指導)(5) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第13回	データ処理(個別指導)(6) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第14回	データ処理(個別指導)(7) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第15回	学びの振り返り 【準備学習と復習】 指導・助言を教職課題研究論文の仕上げにいかす。	(討議)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得するとともに、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

■評価方法

①「毎回の授業への参加態度」、②「課題レポート」により、総合的に評価する。

■使用教材

『教育実践データの統計分析』 奥村太一 著 共立出版 2012年

『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 著 ミネルヴァ書房 2004年

『SPSSによる統計処理の手順(第7版)』 石村貞夫・石村光資郎 著 東京図書 2013年

『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル』 米川和雄他 著 北大路書房 2010年

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第2版』 小塩真司 著 東京図書 2011年

『心理尺度のつくり方』 村上宣寛 著 北大路書房 2006年

『心理学マニュアル質問紙法』 鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育実践研究方法Ⅱ（B）**

■教員名 **寺林 民子 三津村 正和**

■授業概要

『教育実践研究方法Ⅱ』では、「質的研究」（担当：三津村）と「授業研究」（担当：寺林）の2つの研究法について更に詳しく学んでいく。「質的研究」では、主に、質的研究のデータ解析と結果提示のそれぞれの方法について、体系的に学ぶ。「授業研究」では、授業研究の目的と方法、中核となる授業分析について演習を通して学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容	
第1回	オリエンテーション 「質的研究」「授業研究」とは何か？／個々人の研究テーマについて	
第2回	質的研究(1):多様な研究法・解析法 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第3回	質的研究(2):質的データ解析(コーディング) 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第4回	質的研究(3):質的データ解析(カテゴリー化、構造図の作成) 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第5回	質的研究(4):質的データ解析(エスノグラフィー) 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第6回	授業分析の目的と手法、手順と準備:①事前の研究(研究目的と着眼点) 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第7回	授業分析の手順と準備 ②事中の研究体制、③事後研究 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第8回	授業分析の解釈研究(構造図の作成と意味の解釈) 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第9回	授業分析の解釈研究 【準備学習】教材と配布資料を読み、課題を達成する。	
第10回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】資料収集準備	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成
第11回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】資料分析作業	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成
第12回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】資料分析作業	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成
第13回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】資料準備	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成

第14回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】資料分析	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成
第15回	授業分析演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成	質的研究演習:個人の研究内容に合わせて【準備学習】課題の達成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得し、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

授業研究及び質的調査研究法の理論・技能を習得する。

■評価方法

毎回の授業への参加態度と課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

質的研究:①萱間真美『質的研究実践ノート—研究プロセスを進める clue とポイント』(2007年、医学書院、2,376円)、②佐藤郁哉『質的データ分析法—原理・方法・実践』(2008年、新曜社、2,268円)、他、適宜プリントを配布する。

授業研究:①重松鷹泰『授業分析の方法』(1961年、明治図書出版)、②秋田喜代美・キャサリンルイス『授業の研究 教師の学習』(2008年、明石書店)、③日本教育方法学会『日本の授業研究』(2009年、学文社)

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**学習指導の方法研究 I****■教員名** A—長崎伸仁・三津村正和 B—石丸憲一・若井幸子 C—鈴木詞雄・近藤茂代**■授業概要**

教育実習前に、教師として身に付けるべき基本、学習指導の進め方の基本・授業研究の基本、そして、学級経営の基本等を学ぶとともに、教職大学院での自身の研究テーマを明確にし、後期からの「実習研究」に備える。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介／シラバス確認／実習研究について／教師として身に付けるべき基本について(実習に関わる評価基準表)／学習目標の設定／他
第2回	教師として身に付けるべき能力についての討議① 【準備学習】「教育課程に関する総合的な実習」の項目への理解度と免許実習での達成度を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第3回	教師として身に付けるべき能力についての討議② 【準備学習】「教科等の指導に関する総合的な実習」の項目への理解度と免許実習での達成度を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第4回	教師として身に付けるべき能力についての討議③ 【準備学習】「生徒指導、教育相談等に関する総合的な実習」の項目への理解度と免許実習での達成度を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第5回	教師として身に付けるべき能力についての討議④ 【準備学習】「学級経営・学校経営に関する総合的な実習」の項目への理解度と免許実習での達成度を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第6回	教師として身に付けるべき能力についての討議⑤ 【準備学習】「学校教育と教員の在り方に関する総合的な実習」の項目への理解度と免許実習での達成度を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第7回	教師として身に付けるべき能力についての討議⑥ ＊必要に応じて自己評価のためのルーブリックを作成するなどの活動を取り入れる。 【準備学習】授業内容を振り返る。

第8回	実習研究と教育実習の違いについての討議 * 必要に応じて昨年度の実習研究を経験した院生の話を聞くなどの活動を取り入れる。 【準備学習】授業内容を振り返る。
第9回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン 1①→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第10回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン 1②→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第11回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン 1①→討議 * 4人の場合は、プレゼンを工夫すること。 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。
第12回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン 1②→討議 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。
第13回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン 2①→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第14回	個人の研究テーマと研究計画のプレゼン 2②→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第15回	個人で作成した教科等の指導案(総案)のプレゼン 2→討議 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職の専門性を理解し、その資質としての個人的職能と組織的職能を高め、望ましい教師の在り方を身に付けることができる。

■評価方法

「教師として身に付けるべき能力」等についての討議や、指導案作成・プレゼン等をとおして、総合的に評価する。

■使用教材

適宜配布する。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学習指導の方法研究Ⅱ(A, B, C, Dグループ)****■教員名** (A)桐山、吉川、石丸(B)長崎、寺林、三津村(C)長島、鈴木詞、若井(D)宮崎、田村、近藤**■授業概要**

前期の「学習指導の方法研究Ⅰ」で学んだことの実践版が本授業での内容である。
「実習研究Ⅰ・Ⅱ」ならびに「実習研究Ⅲ」の期間でもあり、実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)を浮き彫りにし、自身の研究テーマとの関連を明確にする。なお、本授業の期間は、原則として、実習研究Ⅱ・Ⅲを終えるまでとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション(授業の進め方等について話し合う) * 授業の内容を工夫する—例えば、15回の半分程度は、担当教員だけの指導(個別指導)としたり、毎回30～45分程度を個別指導に当てたり等。 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第2回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議① 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第3回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議② 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第4回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議③ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第5回	実習中の課題(例—子ども対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等)についての討議④ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第6回	(授業研究①—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第7回	(授業研究②—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う—

	【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第8回	(授業研究③—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第9回	(授業研究④—交流・討議) —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第10回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討① 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第11回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討② 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第12回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討③ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第13回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討④ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第14回	今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討⑤ 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。
第15回	まとめ 【準備学習】本授業内容と実習全般を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース
(管理職候補)

自らの実践を客観的に考察し相対化することを通して、専門性の向上・改善を図ることができる

教員を育成するために、学校や他の教育関係機関における実践・研究をふまえつつ、指導・助言をすることができる。

(現職教員)

学校や他の教育関係機関において、自らの教育実践とは異なる実践を客観的に観察したり体験・参画したりすることにより、自らの実践を相対化し、教員としての専門性を向上・改善することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育実習中の種々の事例や学習指導を通して、教師としての資質を身に付けるとともに、自身の研究テーマと関連付けて研究を深めることができる。

■評価方法

事例研究、授業研究、教材研究・指導案検討、研究テーマの発表等を通して、総合的に評価する。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学習活動の組織化とその評価**■教員名** 石丸 憲一 小田 勝己**■授業概要**

『学習活動の組織化とその評価』は、アクティブラーニングの設計と“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について学び合う授業です。

学期の前半はクラス全員でアクティブラーニングの基本的なところを学び合ってもらいます。後半は、リーダーコースの学生は石丸の指導の下、夢の授業づくりに挑戦してもらい、プロコースの学生は小田の下で、ポートフォリオ評価について学んでもらいます。

学習活動の評価については、毎時間のジャーナルや学習物をポートフォリオとして整理し、はじめの段階で作成したルーブリックを使用し評価を行う活動を授業に位置づけています。この活動により、本科目の評価を行いながら、評価の仕方を学習することができます。

■授業計画・内容

回数	内容	
第1回	オリエンテーション 【準備学習】学習の見通しをもって授業に臨む	
第2回	「教育から学習へ」のパラダイム転換について考える 【準備学習】ジャーナルの作成／「教育から学習へ」についてまとめる	
第3回	アクティブ・ラーニング導入の理由を考える 【準備学習】ジャーナルの作成／当該文科省 HP の閲覧	
第4回	アクティブ・ラーニングと学習活動、学習形態の関係を考える 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理	
第5回	アクティブラーニングにおける評価を考える～パフォーマンス評価とポートフォリオ評価～ 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理	
第6回	アクティブラーニングを具体化する【プレゼンテーション】① 【準備学習】ジャーナルの作成／プレゼンテーションの準備	
第7回	アクティブラーニングを具体化する【プレゼンテーション】② 【準備学習】ジャーナルの作成／プレゼンテーションの準備	
第8回	中間振り返り 【準備学習】ジャーナルの作成／中間振り返りシート記入	
第9回	リーダーコース(石丸クラス)	プロフェッショナルコース(小田クラス)
	夢の授業をつくろう1 【準備学習】ジャーナルの作成	ポートフォリオ評価の基本1 【準備学習】ジャーナルの作成
第10回	夢の授業をつくろう2 【準備学習】ジャーナルの作成	ポートフォリオ評価の基本2 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理

第11回	夢の授業をつくろう3 【準備学習】ジャーナルの作成、夢の授業の構想作成、発表準備	ポートフォリオ評価の基本3 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理
第12回	夢の授業をつくろう4 【準備学習】ジャーナルの作成、夢の授業の構想作成、発表準備	ポートフォリオ評価の基本4 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理
第13回	夢の授業をつくろう5 【準備学習】ジャーナルの作成、夢の授業の構想作成、発表準備	ポートフォリオ評価の基本5 【準備学習】ジャーナルの作成、ポートフォリオ評価を取り入れた授業案作成
第14回	成果交流 【準備学習】ジャーナルの作成／成果ポイントまとめ	
第15回	学期末振り返り 【準備学習】ジャーナルの作成、振り返りとまとめ、ポートフォリオの整理	

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- アクティブラーニングの設計及び“21 世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスをしたり、指導的な立場でのコメントをしたりすることができる。

(現職教員)

- アクティブラーニングの設計及び“21 世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- アクティブラーニングの設計及び“21 世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 学習者の参加を促すポートフォリオ評価の基本について理解する。

■評価方法

レポート・ジャーナル・プレゼンテーションなど日常の活動をポートフォリオにして、総合評価する。

■使用教材

教科書:

(プロセス) 小田勝己 『本質的な問いと知識構築』(アカデミア・プレス)

参考書:

石丸『ルーブリック評価を取り入れた道徳授業のアクティブラーニング』明治図書

石丸ほか(2016)『アクティブラーニングでつくる国語科の授業』東洋館出版

小田勝己(2014)『言語活動ポートフォリオ実践案内』アカデミア・プレス

溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

松下佳代編(2014)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房

その他必要に応じて指示する

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 授業力育成のための理論と方法**■教員名** 長崎 伸仁 吉川 成司**■授業概要**

自己の授業力の向上、若手教員の授業力育成や各学校の授業研究の推進がテーマである。すなわち、指導方法・指導技術等についての理解と習得を始め、それらについて理論的・体系的に整理して、同僚教員の授業について検討し助言したり、各学校の授業研究について専門的な見地から指導する資質の育成を目的とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コース・オリエンテーション:授業の進め方について説明するとともに、「授業力を構成する要素」を検討し、問題意識の明確化を図る。 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと
第2回	授業力の必要性に関する資料を読み、必要な授業力、それらを身に付ける必要性などについて討議する。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第3回	「わかる授業のための授業力とは」(仮)との研究テーマについて、資料をふまえて討議する。プレゼンテーションに向けて小グループを編成する。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第4回	教科・領域の授業ビデオを視聴し、小グループで討議する①(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第5回	教科・領域の授業ビデオを視聴し、小グループで討議する②(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第6回	「わかる授業のための授業力とは」(仮)をテーマにしたプレゼンテーションの進め方について全体で検討する。 【準備学習】プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと
第7回	教科・領域の授業ビデオの視聴し、小グループで討議する③(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと
第8回	教科・領域の授業ビデオの視聴し、小グループで討議する④(教科・領域は未定)。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと、プレゼンテーションのためのテーマを検討しておくこと

第9回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション①(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第10回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション②(質疑応答を含む、2～3人)。
第11回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション③(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第12回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション④(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第13回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション⑤(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第14回	「わかる授業のための授業力とは」(仮):プレゼンテーション⑥(質疑応答を含む、2～3人)。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第15回	まとめに代えて:「説明文教材の学習指導論と国語科授業力との連関」、その他 【準備学習】授業全体を復習しておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

教育指導上の課題をとらえ、指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理し、発達段階に応じた指導方法や指導技術に関して高い専門性をもって主幹教諭等に対して指導・助言することができる。

授業力向上のための先進的事例や学校における課題を整理し、組織を生かした取り組みを指導助言できる。

(現職教員)

教育的な効果という面から、自己の指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理するとともに、他者の授業について検討し、助言したり、新たな提案を行ったりすることができる。

授業記録等の分析から、授業力向上に関する課題を明らかにし、新たな校内研修を組織することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

児童・生徒の状況及び各教科等の特性に応じた多様な指導方法・指導技術等についての理解と習得をはかり、授業実践を行うことができる。

「授業力」を構成する要素や学校における授業力向上の取り組みについて理解し、自己の実践を適切に評価し、改善することができる。

■評価方法

「わかる授業のための授業力とは」についてのプレゼンテーションとレポートを成績評価の資料とする。

■使用教材

使用しない。

参考書や参考資料等については、適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ

■教員名 宮崎 猛 平井 康章

■授業概要

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ・Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「Ⅰ」では学校、家庭、地域(以下三者)の連携に焦点をあて、三者が連携することの今日的意義と課題を理論的な側面、制度的な側面、歴史的な側面から考察する。その上で、今日、学校、家庭、地域が連携している実例を实地踏査などを含めて調査し、その内容、方法、意義、課題等について分析する。

本授業進行の過程で、キャリア教育の方法原理、アクティブラーニングの本質として位置づけることができるPBL(プロジェクトベースラーニング)やSL(サービスマーケティング)などについても参加者の関心に応じて扱っていききたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	学校・家庭・地域が連携することの意義や必要性 -現代の社会的課題、教育的課題と三者の連携- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、不明な点等を事前に調査し、理解を進めるとともに、自らの問題意識に依拠しつつ、本授業において明らかにすべき課題を明確にすること。
第3回	学校・家庭・地域が連携にかかわる教育施策 -「開かれた学校」「コミュニティスクール」など- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	学校・家庭・地域の連携にかかわる理論的考察、歴史的考察 -デューイやオルセン等の諸文献、郷土教育などを事例として- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	学校・家庭・地域の連携についての比較研究 -アメリカ「サービスマーケティング」などを事例として- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	キャリア教育の概要 -概念、意義、内容などの把握- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

<p>第7回</p>	<p>学校・家庭・地域の連携の実際について -コミュニティスクールや学校運営協議会などについての事例研究- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第8回</p>	<p>学校・家庭・地域の連携の実際について -コミュニティスクールや学校運営協議会などの実地調査(フィールドワーク)- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第9回</p>	<p>学校・家庭・地域の連携の実際について -事例研究、フィールドワークの調査内容の分析・検討- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第10回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成① -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第11回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成② -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第12回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムやモデルの作成③ -カリキュラムの作成と教師の役割、あり方- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第13回</p>	<p>作成した連携プログラムやモデルの検討 -プレゼンテーションと相互評価- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第14回</p>	<p>学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のかかわり -グループ討議- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第15回</p>	<p>まとめ、ポートフォリオの作成 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

(管理職候補者)

学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、学校現場において、三者連携のカリキュラム、プログラム、教師の役割、サービス等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。

(現職教員)

学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、勤務校等の学校現場において、三者連携の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校・家庭・地域が連携することの今日的意義と課題を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践上の立場から理解し、カリキュラムの作成や運営に携わることができる知見や実践力を獲得する。

■評価方法

○評価方法 出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案20点

○評価基準 S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ

■教員名 宮崎 猛 鈴木 詞雄

■授業概要

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ・Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携を前提として展開するキャリア教育の意義や内容、方法等について、事例研究やフィールドワークなどを通して理解する。また、学校現場で実践可能なキャリア教育のカリキュラムやプログラムを作成し、その内容を討議する。

それらの研究成果をもとに、参加者の所属校、実習校等で実施可能な三者連携の具体的なあり方の検討したり、モデルなどを作成したりするとともに、そこにおけるキャリア教育との関わりを考察する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	学校、家庭、地域の連携とキャリア教育の関わりについての理解 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	学習指導要領やキャリア教育にかかわる各種答申の理解・検討 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	キャリア教育推進校の事例検討① -グループによる調査、プレゼンテーション- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	キャリア教育推進校の事例検討② -グループによる調査、プレゼンテーション- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	キャリア発達、キャリア教育の理論 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	キャリア教育先進校への実地調査(フィールドワーク)事前準備 -都内公立小・中学校- 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第8回	<p>キャリア教育先進校へのフィールドワーク -都内公立小・中学校-</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第9回	<p>キャリア教育先進校フィールドワークの分析・検討(振り返り) -当該校の担当者を招聘して-</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第10回	<p>キャリア教育のカリキュラム作成① -所属校や実習校で実施可能なモデルとして-</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第11回	<p>キャリア教育のカリキュラム作成② -所属校や実習校で実施可能なモデルとして-</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第12回	<p>キャリア教育のカリキュラム作成③ -所属校や実習校で実施可能なモデルとして-</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第13回	<p>作成したカリキュラムの検討① プレゼンテーションと相互評価</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第14回	<p>作成したカリキュラムの検討② プレゼンテーションと相互評価</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第15回	<p>まとめ、ポートフォリオの作成</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

(管理職候補者)

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、キャリア教育の理論、カリキュラム、教師の役割等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。

(現職教員)

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、勤務校等の学校現場において、キャリア教育の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

キャリアの教育内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践的な立場から理解し、カリキュラムの作成と運営に携わることができる知見や実践力を身につける。

■評価方法

○評価方法 出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案 20点

○評価基準 S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名**総合学習と社会参加学習論****■教員名****桐山 信一 宮崎 猛****■授業概要**

時代の進展とともに学校教育が提供する教育内容が系統化・専門化が進むことは避けて通ることができない。しかし、それによって学校教育の学習は、学習者の学ぶ必要性や必然性から乖離していくこともまた避けて通れない。学校教育が生まれて以降、今日まで間断なく繰り返されてきた経験主義と系統主義との間の揺れ、自由教育と管理教育、進歩派と保守派と間での対立の背景である。

本授業では、系統化・専門化が進むことを前提として、学ぶことの意味や意義をどのように取り戻すか、学校の学習と現実社会をどのように関連させるか、といった本質的な課題に対して、学習の総合化(総合学習)、ならびに学習の社会との架橋化(社会参加学習)を手がかりに追究していく。その際、それらを実践的に考察することが、学習指導要領上の要請でもあり、グローバル化に対応する人材育成においても重要であることを確認することになる。それらへの検討を踏まえ、各学校において展開可能な教育実践や授業モデルを考案するが、特に本授業では、理科教育を専門とする教員と社会科教育を専門とする教員のチームティーチングで行われることから、理科と社会の統合や連関が具体的事例として取り上げられながら進められることになる。

さらに、新しい学習指導要領で求められているアクティブ・ラーニングについても、その本質は本授業のテーマと親和性が高いことから、アクティブ・ラーニングの歴史や理論的背景を踏まえた方法論の考察も行われることになる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション、参加者の関心領域と本授業の目標、内容 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	総合的な学習の創設の経緯、内容、課題 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	総合的な学習の意義: 系統主義と経験主義—デューイの議論などを通して 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	学ぶこと、身に付くとはどのようなことか—社会構成主義や状況学習論を通して 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	クロスカリキュラムの意義と概要 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第6回	クロスカリキュラムの方法 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	社会参加学習の意義と方法 サービス・ラーニングを事例として 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	振り返りの方法と理論 サービス・ラーニングを事例として 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	総合的な学習の時間の実践事例の検討 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	アクティブ・ラーニングの出自と理論 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	アクティブ・ラーニングの本質と社会参加、総合学習 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想とその検証 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	本授業全体の振り返りと総括 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成－各国間で求められている学力水準－などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、学校現場における総合的な学

習の時間等における授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を身に付ける。

(現職教員)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成—各国間で求められている学力水準—などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成—各国間で求められている学力水準—などの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、指導目標・内容、教材、指導方法、評価等の特質に理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を身に付ける。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

参考書・参考資料等)

桐山信一著:

『学校理科で探究する生活科学—生活科学的アプローチによる学校理科の学習転換【エネルギー・電磁波・放射能】』(大学教育出版)

宮崎猛著:

『主体的な学びで学力を伸ばす！アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア』(ナツメ社)

『教師のための現代社会論』(教育出版)

『高校「総合的な学習」研究と実践の手引き』(明治図書出版)

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 ICTを活用した教育活動**■教員名** 鈴木 詞雄 三津村 正和**■授業概要**

本授業の到達目標は、次の通りである。(1)電子黒板をはじめとするICT機器を利用した授業を展開できる。(2)電子教科書をはじめとするデジタル教材の有効な活用法を考えることができる。(3)高度な画像教材の制作ができる。これらのスキルの育成を図りながら、ICTを活用した効果的な授業設計に関する理論・実践を体験的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(1):電子教科書の使用 【準備学習】配付資料を読む。
第3回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(2):電子教科書の有効利用 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第4回	ICT・協同学習を活用したアクティブ・ラーニング型授業デザイン① 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第5回	ICTスキルの育成①:「デジタル絵本」の制作 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第6回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(3):課題の設定 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第7回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(4):デジタル教材の開発 【準備学習】配付資料を読み、課題を考える
第8回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(5):デジタル教材の開発 【準備学習】配付資料を読み、課題を達成する手段を考える。
第9回	中間振り返り、今後に向けて 【準備学習】課題を達成する。
第10回	ICT・協同学習を活用したアクティブ・ラーニング型授業デザイン② 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第11回	ICTスキルの育成②:「反転学習用教材」の制作 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第12回	ICTスキルの育成③:「学級新聞」の制作 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第13回	ICTを効果的に活用した授業設計:プレゼンテーション① 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

第14回	ICTを効果的に活用した授業設計:プレゼンテーション② 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第15回	総括的討議 【準備学習】総括的討議に備える。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。</p>
--

■評価方法

<p>授業への参加態度、プレゼンテーション、課題レポート等により、総合的に評価する。</p> <p>※自由聴講は、原則不可。</p>
--

■使用教材

<p>※適宜、プリントを配布する。</p>

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名	人間教育実践分析研究
------	------------

■教員名	宮崎 猛 小田 勝己
------	------------

■授業概要	<p>人間教育とはいかなるものであるのかを教科・領域、校種を通底した見地から解明することが本授業の目標である。そのために教育学にかかわる先哲の思想や主要な教育理論を取り上げ、人間教育の視点から分析する。参加者の関心領域によって教材は選択するが、デューイの原著(日本語訳)の「経験と教育」は読破し、その他「民主主義と教育」等は人間教育探究における必読書と捉えている。それらへの分析(カジュアルな環境のもとでの批判的な議論)をもとに、学校教育の現状・現実を前提として、人間教育の立場から、学校教育の在り方や授業改善の方途について参加者間で明らかにしていく。また、夏休みの集中討議やフィールドワーク(ニールの教育理論を具現化しているきのくにこども学園など)も参加者の希望によって実施したい。前期・後期通年での履修が望まれる。</p>
-------	---

■授業計画・内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> コースオリエンテーション 参加者間での課題意識の交流 担当教員の専門領域1(社会参加学習論) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。 </td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td> 担当教員の専門領域2 一人ひとりの可能性を引き出す MI 理論と相互理解を深めるポートフォリオ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。 </td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td> 人間教育を考察する前提 学校教育、教師への社会的要請とその背景 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。 </td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td> 人間教育を目指す教育理論1① 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。 </td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td> 人間教育を目指す教育理論1② 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。 </td> </tr> </tbody> </table>	回数	内容	第1回	コースオリエンテーション 参加者間での課題意識の交流 担当教員の専門領域1(社会参加学習論) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。	第2回	担当教員の専門領域2 一人ひとりの可能性を引き出す MI 理論と相互理解を深めるポートフォリオ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。	第3回	人間教育を考察する前提 学校教育、教師への社会的要請とその背景 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。	第4回	人間教育を目指す教育理論1① 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。	第5回	人間教育を目指す教育理論1② 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
回数	内容												
第1回	コースオリエンテーション 参加者間での課題意識の交流 担当教員の専門領域1(社会参加学習論) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。												
第2回	担当教員の専門領域2 一人ひとりの可能性を引き出す MI 理論と相互理解を深めるポートフォリオ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。												
第3回	人間教育を考察する前提 学校教育、教師への社会的要請とその背景 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。												
第4回	人間教育を目指す教育理論1① 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。												
第5回	人間教育を目指す教育理論1② 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。												

<p>第6回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論2① 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第7回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論2② 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第8回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論2③ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第9回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論2④ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第10回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論3① 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第11回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論3② 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第12回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論3③ 「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第13回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論と教職経験① 参加者の希望によってはフィールドワーク 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
<p>第14回</p>	<p>人間教育を目指す教育理論と教職経験② 参加者の希望によってはフィールドワーク 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

	ついて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育について理論研究・比較研究等の多面的・多角的な視野から探究し、人間教育の視座を獲得するとともに、鳥瞰的な視野から授業改善や教育改革に資する事項を自分なりの考えをもって表明することができる。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加意欲:20点、最終報告書・授業案
20点

S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育実践分析研究

■教員名

田村 修一

■授業概要

本科目は、①「子どもにとっての幸福とは」、②「子どもと教師の望ましい関係とは」、③「教師に必要な資質・能力とは」など、教育実践の前提となる教師自身の教育哲学・教育思想について、国内外の教育学や心理学の文献の熟読を通して、また受講者同士の議論を通して、これらの重要なテーマについて考察を深めていく授業とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション<本科目の概要と授業の進め方・評価方法についての説明>、討議テーマ:現在の自分の教育実践上の悩みと課題 【準備学習と復習】事前にシラバスを読んでおく。
第2回	「人間の幸福」について考える(1) 討議テーマ:ウェルビーイングとは 課題図書:『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	「人間の幸福」について考える(2) 討議テーマ:幸せの創造 課題図書:『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	「人間の幸福」について考える(3) 討議テーマ:ポジティブ教育 課題図書:『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	「人間の幸福」について考える(4) 討議テーマ:フロー体験とは 課題図書:『フロー体験:喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	「人間の幸福」について考える(5) 討議テーマ:私のフロー体験 課題図書:『フロー体験・喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第7回	「人間の幸福」について考える(6) ★学生によるプレゼン 発表テーマ:「ポジティブ心理学」を教育実践にいかす(私のアイデア) 【準備学習と復習】プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第8回	教師と子どもの関係性(1) 討議テーマ:陽の当たる子・影の子 課題図書:『教師と子どもの関係づくり』(近藤邦夫) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	教師と子どもの関係性(2) 討議テーマ:効果的な教師の指導とは 課題図書:『教師と生徒の人間関係』(プロフィーとグッド) 【準備学習と復習】事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。

第10回	教師と子どもの関係性(3) ★学生によるプレゼン 発表テーマ:教師として「一皮むけた体験」(私のエピソード) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第11回	教師の実践知(1)・ 討議テーマ:実践知とは・熟達者とは 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第12回	教師の実践知(2) 討議テーマ:熟達化のメカニズム 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	教師の実践知(3) 討議テーマ:実践知の継承とリーダーシップ 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	教師の実践知(4) 討議テーマ:教育実践と教師の成長・発達 課題図書:『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	教師の実践知(5) ★学生によるプレゼン 発表テーマ: 私が獲得した「実践知」 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。また、学校内の全教員に対する適切な指導・助言力を身につける。

(現職教員)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。

■評価方法

①「毎回の授業の参加態度」、②「プレゼン」、③「課題レポート」により総合的に評価する。

■使用教材

「ポジティブ心理学の挑戦: 幸福から持続的幸福へ」 マーティン・セリグマン 著

ディスカヴァー・トゥエンティワン 2014年

「フロー体験・喜びの現象学」 M・チクセントミハイ 著 世界思想社 1996年

「教師と子どもの関係づくり」 近藤邦夫 著 東京大学出版会 1994年

「教師と生徒の人間関係 ―新しい教育指導の原点―」 J.E. ブロフィ, T.L. グッド著

(浜名外喜男, 蘭 千壽, 天根哲治 共訳) 北大路書房 1985年

「実践知： エキスパートの知性」 金井壽宏・楠見 孝 著 有斐閣 2012年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育実践分析課題研究**■教員名** 宮崎 猛 小田 勝己**■授業概要**

本授業では、前期「人間教育実践分析研究」における研究成果を継承・発展させ、人間教育という視座からの社会の在り方、すなわち教育のための社会とはどのようなものであるかを論考していく。さらにその論考を各自の教育実践、研究テーマ・内容、問題関心領域に適応、環流させ、具現化を図る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	人間教育の視座からの社会の在り方① シューマッハー「スモールイズビューティフル」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	人間教育の視座からの社会の在り方② アダム・スミス「道徳感情論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	人間教育の視座からの社会の在り方③ イリイチ「脱学校論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	人間教育の視座からの社会の在り方④ トインビー・池田大作「21世紀の対話」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	前半のまとめ 「教育のための社会」とは 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	デューイ「経験と教育」前期の続き① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第8回	デューイ「経験と教育」前期の続き② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	デューイ「経験と教育」前期の続き③ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	学ぶとは・・・状況学習論から① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。各自の研究テーマと人間教育①
第11回	学ぶとは・・・状況学習論から② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自の研究テーマと人間教育① プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	各自の研究テーマと人間教育② プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	各自の研究テーマと人間教育③ プレゼンテーションと討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育とはいかなるものかについて、理論、実践の両面から自分なりの識見をもち、他者に対し実証的に説明することができるようになる。また、その識見を自身の教育実践に具体的な内容、方法等として適用・応用することができるようになり、教師のキャリア形成において不断に更新するための基盤を獲得する。

■評価方法

出席:30 点(2×15) レポート・振り返り:30 点、授業への参加意欲:20 点、最終報告書・授業案
20 点

S:90 点以上 A:80 点以上 B:70 点以上 c:60 点以上 D(不合格):59 点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語 日本語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育実践分析課題研究

■教員名

田村 修一

■授業概要

本科目は、自己の教育実践を省察するための理論や分析法を学びながら、現在の学校教育における様々な課題を解決できる能力(実践知)を身につけ、自分の職場で「人間教育」を十分に展開できる基礎的な能力を培う授業とする。具体的には、他者や自分自身の「教育実践(成功例・失敗例)」について、様々な分析方法を用いて、多角的に分析し、客観的に整理された「教育実践記録」を書く能力を培う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	教育実践記録(1) 討議テーマ:「教育実践記録」の意義・目的・構成要素 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	教育実践記録(2) 討議テーマ:「教育実践記録」の分析的読み方 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	教育実践記録(3) 討議テーマ:教師の学び合いとしての「教育実践カンファレンス」 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	教育実践記録(4) 演習:「教育実践カンファレンス」の体験 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第5回	学びに関する理論(1) 討議テーマ:教育改革の中のアクティブ・ラーニング 課題図書:アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討(日本教育方法学会 編) 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	学びに関する理論(2) 討議テーマ:アクティブ・ラーニングをめぐる理論 課題図書:アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討(日本教育方法学会 編) 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第7回	学びに関する理論(3) 討議テーマ:グルントヴィの対話理念 課題図書:デンマーク教育を支える「声の文化」 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第8回	学びに関する理論(4) 討議テーマ:コルの「話す学校」 課題図書:デンマーク教育を支える「声の文化」 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第9回	学びに関する理論(5) 討議テーマ:オラリティーを重視した評価方法 課題図書:デンマーク教育を支える「声の文化」 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。演習の振り返り。
第10回	「心理教育的援助サービス」の分析(1) 討議テーマ:1次的援助サービス① 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他)

	【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第11回	「心理教育的援助サービス」の分析(2) 討議テーマ:1次的援助サービス② 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第12回	「心理教育的援助サービス」の分析(3) 討議テーマ:2次的援助サービス① 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	「心理教育的援助サービス」の分析(4) 討議テーマ:2次的援助サービス② 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	「心理教育的援助サービス」の分析(5) 討議テーマ:3次的援助サービス① 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	「心理教育的援助サービス」の分析(6) 討議テーマ:3次的援助サービス② 課題図書:「学校での効果的な援助をめざして」(石隈・水野 他) 【準備学習と復習】 事前に課題図書を読んでおく。討議の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、「教育実践」を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。また、教育実践に対する分析能力を活用して、他者の教育実践の改善・向上を指導・援助できる能力を身につける。

(現職教員)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、「教育実践」を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。

■評価方法

「毎回の授業の参加態度」「プレゼン」「課題レポート」を総合的に評価する。

■使用教材

高橋早苗(2007)「反省的実践家としての教育実践記録の意義と活用」教育方法学研究, 33, 49-60. (「日本教育方法学会」学会誌の掲載論文)

「アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討」日本教育方法学会 編 図書文化 2016年

「デンマークの教育を支える『声の文化』—オラリティに根差した教育理念 児玉珠美 著

新評論 2016年

「学校での効果的な援助をめざして:学校心理学の最前線」石隈利紀・水野治久 編著

ナカニシヤ出版 2009年

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析研究

■教員名 吉川 成司 桐山 信一

■授業概要

『カリキュラム・イノベーション』をテキストとし、新しい学びの創造に向けたカリキュラム研究の動向を理解することを通じ、各自がカリキュラム論、学校論、教師論等について、人間教育の視座から検討しつつ、その確立をめざす。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】シラバスの確認、テキストの準備
第2回	第I部第1章 【準備学習】第1部第1章の予習
第3回	第I部第2章 【準備学習】第1部第2章の予習
第4回	第I部第3章 【準備学習】第I部第3章の予習
第5回	第1回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第6回	第2回プレゼンテーション 【準備学習】: 前時までに決めた担当箇所の予習
第7回	第3回プレゼンテーション 【準備学習】: 前時までに決めた担当箇所の予習
第8回	第4回プレゼンテーション 【準備学習】: 前時までに決めた担当箇所の予習
第9回	第5回プレゼンテーション 【準備学習】: 前時までに決めた担当箇所の予習
第10回	レポート作成に向けて① 【準備学習】: レポート作成
第11回	レポート作成に向けて② 【準備学習】: レポート作成
第12回	レポート作成に向けて③ 【準備学習】: レポート作成
第13回	レポート作成に向けて④ 【準備学習】: レポート作成
第14回	レポート作成に向けて⑤ 【準備学習】: レポート作成

第15回	総括と後期の授業に向けての計画づくり 【準備学習】:レポート完成と提出
-------------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェッショナルコース

カリキュラムに関する近年の研究動向を理解するとともに、人間教育の視点からそれぞれについて吟味検討し、プレゼンテーションとレポートに各自の見解を表明することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40% とする。

■使用教材

東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会編(2015)『カリキュラム・イノベーション—新しい学びの創造へ向けて—』(東京大学出版会, 3400円)

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**人間教育事例分析研究****■教員名**

若井 幸子

■授業概要

本講義では創立精神に掲げられている「人間教育」を学び、教師として教育現場で「児童の幸福」を目指す教育実践とはなにかを追求する。本学は建学の精神として「人間教育の最高学府たれ」との命題を掲げ、創立者の理念と実践に学び、世界の平和に貢献する人材の育成をめざしている。本学に学ぶ一人ひとりにとって、「人間教育」という視座に基づく教育とはいかなる実践なのか、学校現場の教師として教育実践にどのように取り組んだら良いのか、「人間教育」を実践する教師のありようをさぐり、実践的力量を養う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	人間教育全体オリエンテーション ガイダンス
第2回	研究課題の検討・学習の進め方 話題提供者の話し合い 【準備学習】自身の研究課題を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第3回	創造的人間とは ①全体性・創造性・国際性 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第4回	②青少年観・児童観 認識と評価 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第5回	③実践事例検討 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第6回	④実践事例検討 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第7回	教育のための社会めざして ①学校の教育力向上 教育力の復権 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第8回	②創価一貫教育 教科教育 読書教育 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第9回	③実践事例検討 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第10回	④実践事例検討 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第11回	人間教育への新しき潮流 ①生涯教育と人間の成長 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第12回	②自律的な学び 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。

第13回	② 実践事例検討 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。 復習:振り返りをまとめる。
第14回	1回から13回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。① 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。 復習:振り返りをまとめる。
第15回	まとめ 後期の研究課題設定にかかわる検討 今までの授業をふりかえり、成果・課題を検討する。② 【準備学習】復習:前期を振り返るレポートを作成する。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて実践できる資質を養う。(現職教員 10年未満)
- ・人間教育の理念に基づいた教育実践を理解し、各自の考えを深めていくことができる。(ストリートマスター)

■評価方法

授業のプレゼンテーションや討論への参加、レポートなどを参考に評価する

■使用教材

参考図書

「わが教育者に贈る」2015年11月18日
「人間教育への新しき潮流」池田大作・ジムガリソン・ラリーヒックマン
「教育の目指すべき道—私の所感」1984年8月24日
「教育提言」2000年9月29日30日・2001年1月9日
コロンビア大学記念講演「地球市民」教育への一考察 1996年6月13日
新・人間革命「人間教育の章」「栄光の章」「若芽の章」「創価大学の章」
「創立の精神を学ぶ」創価大学創価教育研究所
「創価教育学体系」牧口常三郎全集
「教育学をつかむ」有斐閣
「民主主義と教育」j・デューイ 岩波書店
教育実践記録など参考資料は適宜紹介する。
教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析課題研究

■教員名 吉川 成司 桐山 信一

■授業概要

『岩波講座 教育 変革への展望』(全 7 巻)をテキストとし、その中から各自の問題意識に基づき論考を選び、教育改革を巡るさまざまな議論について多面的に理解することを通じて、人間教育のあり方(カリキュラム論、学校論、教師論等)を探り、新しい学びの創造に向けて、人間教育の視座の確立をめざす。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】シラバスの確認、テキストの準備
第2回	第I部第1章 【準備学習】第1部第1章の予習
第3回	第I部第2章 【準備学習】第1部第2章の予習
第4回	第I部第3章 【準備学習】第I部第3章の予習
第5回	第1回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第6回	第2回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第7回	第3回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第8回	第4回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第9回	第5回プレゼンテーション 【準備学習】前時までに決めた担当箇所の予習
第10回	レポート作成に向けて① 【準備学習】レポート作成
第11回	レポート作成に向けて② 【準備学習】レポート作成
第12回	レポート作成に向けて③ 【準備学習】レポート作成
第13回	レポート作成に向けて④ 【準備学習】レポート作成

第14回	レポート作成に向けて⑤ 【準備学習】レポート作成
第15回	全体の総括 【準備学習】レポート完成と提出

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育改革を巡るさまざまな議論について多面的に理解することを通じて、人間教育のあり方(カリキュラム論、学校論、教師論等)を探り、新しい学びの創造に向けて、人間教育の視点からそれぞれについて吟味検討し、プレゼンテーションとレポートに各自の見解を表明することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40% とする。

■使用教材

『岩波講座 教育 変革への展望』(全7巻)岩波書店(各巻 3200円)

第1巻『教育の再定義』、第2巻『社会の中の教育』、第3巻『変容する子どもの関係』、第4巻『学びの専門家としての教師』、第5巻『学びとカリキュラム』、第6巻『学校のポリティクス』、第7巻『グローバル時代の市民形成』

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育事例分析課題研究

■教員名

若井 幸子

■授業概要

本講義では創立精神に掲げられている「人間教育」を学び、教師として教育現場で「児童の幸福」を目指す教育実践とはなにかを追求する。本大学は建学の精神として「人間教育の最高学府たれ」との命題を掲げ、創立者の理念と実践に学び、世界の平和に貢献する人材の育成をめざしている。本学に学ぶ一人ひとりにとって、「人間教育」という視座に基づく教育とはいかなる実践なのか、学校現場の教師として教育実践にどのように取り組んだら良いのか、「人間教育」を実践する教師のありようをさぐり、実践的力量を養う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースガイダンス 前期「人間教育事例分析研究」の復習と各自の研究計画の策定
第2回	各自の研究課題の検討・学習の進め方 話題提供者の話し合い 【準備学習】各自の研究課題を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第3回	「人間教育」へのアプローチ(試論作成)にあたって 議論・協議・検討① 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第4回	「人間教育」へのアプローチ(試論作成)にあたって 議論・協議・検討② 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第5回	「人間教育」へのアプローチ(試案作成)にあたって 議論・協議・検討③ 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第6回	各自の課題進捗状況の確認 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第7回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する① 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第8回	①をもとに討議し深める 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第9回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する② 予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第10回	②をもとに討議し深める。 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第11回	今までの議論をもとに「人間教育」の試論を発表する③ 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第12回	③をもとに討議し深める 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。

第13回	1回から12回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。① 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第14回	1回から12回までの授業をふりかえり、成果課題を検討する。② 【準備学習】予習:資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第15回	各自の「人間教育」(試論)レポートを仕上げる。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・教師としての各自の実践や活動を人間教育の理念から省察するとともに、人間教育の理念に基づいて実践できる資質を養うとともに、自身の「人間教育」について試論を提言する。(現職教員 10年未満)
- ・人間教育の理念に基づいた教育実践を理解し、各自の考えを深め、自身の「人間教育」の試論をまとめる。(ストレートマスター)

■評価方法

授業のプレゼンテーションや討論への参加、レポート等で評価する

■使用教材

参考図書

「わが教育者に贈る」2015年11月18日
「人間教育への新しき潮流」池田大作・ジムガリソン・ラリーヒックマン
「教育の目指すべき道—私の所感」1984年8月24日
「教育提言」2000年9月29日30日・2001年1月9日
コロンビア大学記念講演「地球市民」教育への一考察 1996年6月13日
新・人間革命「人間教育の章」「栄光の章」「若芽の章」「創価大学の章」
「創立の精神を学ぶ」創価大学創価教育研究所
「創価教育学体系」牧口常三郎全集
「教育学をつかむ」有斐閣
「民主主義と教育」j・デューイ 岩波書店
教育実践記録など参考資料は適宜紹介する。
教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Aグループ)

■教員名 長崎 伸仁 石丸 憲一

■授業概要

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究→←実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	オリエンテーション(自己紹介・研究テーマについての概略の交流) 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第3回	石丸の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第4回	長崎の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第5回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第6回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第11回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。

第12回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題⑥ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学習】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

- ①プレゼン
- ②主体的な参加
- ③研究深化力 等を総合的に判断する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

* 夏期または秋期合宿研修会(必要に応じて)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Bグループ)**■教員名** 宮崎 猛 桐山 信一**■授業概要**

教育実践の場と関連した自己の研究課題を明確にし、教育(学)についての研究を進めていく過程において探究的態度を培い、教育研究者としての資質(の基礎)を身に付ける。そして、前期 and/or 後期に、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会での発表、学会発表、投稿論文作成など)で公表して成果として残す努力を義務づける。(後期には、その成果を、リフレクションペーパーとしてまとめるものとする。)

なお、本コースでは、社会科学系教員(国際政治学/社会科教育学)と理工系教員(環境理科/教育)の協働により、教科教育学的研究などを視野に入れた多角的な角度から教育(学)研究を推進するものとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	教職大学院の学び(研究と実践の融合)について —教職修士の学びと研究レベルとは、2015・2016年度の研究を例に— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第3回	教育(学)研究の在り方Ⅰ—教育実地調査のデザイン— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第4回	教育(学)研究の在り方Ⅱ—教育研究データのデザイン— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第5回	教育(学)研究の方法と内容Ⅰ —人を対象とする研究への制約、倫理委員会への手続きとの関連など— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第6回	教育(学)研究の方法と内容Ⅱ —量的研究の方法を参考に(仮説と検定の考え方)— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第7回	教育(学)研究の方法と内容Ⅱ —量的研究と質的研究のつながり(KJ法からコレスポネンス分析へ)— 【準備学習】なし
第8回	教育(学)研究の方法と内容Ⅳ —質的研究の方法を参考に(M-GTAなどの考え方)— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第9回	研究の現場から—担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅠ— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読

第10回	研究の現場から一担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅡー 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第11回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅰー個人研究ー 【準備学習】なし
第12回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅱー個人研究ー 【準備学習】文献などの既読
第13回	研究テーマ及び設定理由の公表・質疑及び討論 【準備学習】なし
第14回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅰ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第15回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅱ、前期のまとめ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場あるいは教育行政における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

(現職教員 10年以上)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

(現職教員 10年未満)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての資質を身に付ける。

(ストレートマスター)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、将来教育現場における研究指導者となり得る基礎的資質を身に付ける。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60% (4点/回×15=60)、振り返りレポート 40% による総合評価とする。

■使用教材

参考文献

宮崎・桐山ゼミの教職課題研究論文、抄録集

宮崎 猛「アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア」:ナツメ社、2017

秋田喜代美、恒吉僚子、佐藤学著「教育研究のメソロジー」:東京大学出版会

■授業で使用する言語

(**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Cグループ)

■教員名 長島 明純 吉川 成司

■授業概要

生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育などを中心に、教育に関する現代の諸課題への理解を深めながら、その教育の場で生かしていける資質を磨く。とともに、後期に書き上げる「教職課題研究」論文をまとめていくための基礎的な力量を育成する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	受講者の課題意識と研究したいテーマについての発表。各受講者の論文についての計画を確認。それに関する協議検討。① 【準備学習】研究課題意識や研究テーマについてまとめておくこと
第3回	受講者の課題意識と研究したいテーマについての発表。各受講者の論文についての計画を確認。それに関する協議検討。② 【準備学習】研究課題意識や研究テーマについてまとめておくこと
第4回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。① 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第5回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。② 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第6回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。③ 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第7回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ① 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第8回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ② 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第9回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ③ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第10回	「教職課題研究」論文の構成の概要を報告。(受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション) ④ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第11回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ①

	【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第12回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。 (受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ② 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第13回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。 (受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ③ 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ① 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと
第15回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ② 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理し理解するとともに、教育の場で、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる力を身につける。
- ・生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理理解し、論文としてまとめ上げる事ができるとともに、他の教員に対して、専門性をもって適切な論文指導をすることができる力の基礎を培う。

(現職教員)

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、適切に考察し、現場の対応について、他の教員に提案したり助言したりすることができる力を身につける。
- ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導や特別支援教育などの課題について、深く考察し、それを論文として、まとめ上げることができる力の基礎を培う。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について、十分に考察し、現場での対応に生かすことができる力を身につける。
- ・生徒指導や特別支援教育の課題などを論文として構成しまとめることができる力の基礎を培う。

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議など、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書：

『子どもを育む学校臨床力』角田豊・片山紀子・小松貴弘編著，創元社，2016.

『キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』有村久春著，金子書房，2008.

『生徒・進路指導論』吉川成司編著，創価大学通信教育部，2013.

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Dグループ)**■教員名** 田村 修一 近藤 茂代**■授業概要**

本科目の目的は、教育実践に関する科学的論文を書く力を培うことである。具体的には、①研究テーマの設定と練り上げ、②先行研究の調べ方と読み方、③質的研究と量的研究の概要と相違点、④論文構成とプロポーザル(研究計画書)の書き方について、講義・実習・討議を通して学ぶ。そして、可能な限り夏季休業中から自分の研究のデータ収集に取り組めるように、プロポーザルを前期の最終回までに必ず完成させたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	オリエンテーション<本科目の概要と授業の進め方、評価方法についての説明>、討議テーマ:「教師が研究する意味」と「自分の関心」 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第3回	研究テーマの設定(自問自答しよう) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	プロポーザル(研究計画書)の書き方 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第5回	研究構想発表会 ★(プレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第6回	先行研究の調べ方・論文の読み方 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第7回	量的研究法の概要 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第8回	質的研究法の概要 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第9回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(1) ★(プレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第10回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(2) ★(プレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第11回	自分の研究テーマに関する先行研究の整理(3) ★(プレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第12回	プロポーザル(研究計画書)の作成(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。

第13回	プロポーザル(研究計画書)の作成(2) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。	(進捗状況の報告)
第14回	プロポーザル(研究計画書)の作成(3) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。	(進捗状況の報告)
第15回	プロポーザル(研究計画書)発表会 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。	★(プレゼン)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、教育研究をリードしていける研究能力を身につける。

(現職教員)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

■評価方法

①「授業への参加態度」、②「プロポーザル(研究計画書)」の内容(完成度)を総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ（Eグループ）**■教員名** 寺林 民子 三津村 正和**■授業概要**

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究方法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、質的調査・研究のデザイン、研究論文作成法の理解、後期までの研究計画の策定を指導する。これらの学習を通じて、近い将来、研究紀要をはじめ、研究学会の機関紙などに相応しい体裁の論文が書けるようになることが期待される。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討① 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第3回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討② 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第4回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討③ 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第5回	質的調査・研究のデザイン① 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第6回	質的調査・研究のデザイン② 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第7回	研究論文作成法① 【準備学習】配布資料を読む。
第8回	研究論文作成法② 【準備学習】配布資料を読む。
第9回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション① 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第10回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション② 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第11回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション③ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第12回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション④ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。

第13回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画の策定① 【準備学習】研究活動計画を策定する。
第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画の策定② 【準備学習】研究活動計画を策定する。
第15回	まとめ 【準備学習】前期の振り返り

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

－授業時における研究テーマ、論文のアウトライン、後期までの研究計画に関するプレゼンテーション。

－これらを総合した期末レポート。

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Fグループ)**■教員名** 鈴木 詞雄 若井 幸子**■授業概要**

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究↔実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	全体ガイダンス 配属調整
第2回	オリエンテーション(自己紹介・研究テーマについての概略の交流) 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見直し。本授業の振り返り。
第3回	鈴木・若井の専門分野からの提案①→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見直し。本授業の振り返り。
第4回	鈴木・若井の専門分野からの提案②→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第5回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第6回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの具体と展望⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第11回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。

第12回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学習】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

研究深化力・プレゼン力等を総合的に判断する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Aグループ)

■教員名 長崎 伸仁 石丸 憲一

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—④

	【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—① 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—② 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—③ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第13回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する B—④ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文作成についての最後のツメ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ — 課題と展望 — 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。

■評価方法

①プレゼン

②主体的な参加

③研究深化力 等を総合的に判断する(特に、教職課題研究論文の内容を重視する)。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Bグループ)**■教員名** 宮崎 猛 桐山 信一**■授業概要**

教育実践の場と関連した自己の研究課題に基づき、教育(学)についての研究を進めていく過程において探究的態度を培い、教育研究者としての資質の基礎を身に付ける。そして、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会での発表、学会発表、投稿論文作成など)で公表して成果として残すことを目標に授業を展開する。最後に、それらの研究成果を、リフレクションペーパーとしてまとめる。

なお、本コースでは、社会科学系教員(国際政治学/社会科教育学)と理工系教員(環境物理/理科教育)の協働により、教科教育学的研究などを視野に入れた多角的な角度から教育(学)研究を推進するものとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	研究計画の進捗状況(夏期休業中など)の報告 これまでどのような実践・調査を実施したのか、院生の実例報告 【準備学習】行った調査の整理など
第2回	院生の実例報告(続き) 【準備学習】行った調査の整理など
第3回	教育調査 研究法Ⅰ－実例に対応する量的処理の方法の探究－ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第4回	教育調査 研究法Ⅱ－実例に対応する質的処理の方法の探究－ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第5回	教育調査 研究法Ⅲ－発表論文・誌上論文のプロトタイプについて－ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第6回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅰ－ 【準備学習】なし
第7回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅱ－ 【準備学習】なし
第8回	学会発表形式による中間報告Ⅰ 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第9回	学会発表形式による中間報告Ⅱ 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第10回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅲ－ 【準備学習】なし

第11回	教育実値調査・整理・分析—個人研究Ⅳ— 【準備学習】なし
第12回	教育実地調査・整理・分析—個人研究Ⅴ— 【準備学習】なし
第13回	教職課題研究論文抄録の執筆開始 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第14回	教職課題研究論文抄録の執筆・推敲 【準備学習】個人研究の整理・発表準備(このあたりで、研究発表会あり)
第15回	教職課題研究論文の執筆・校了 【準備学習】なし

■到達目標

B コースの受講者全員が、創価大学教育研究発表会などに発表・投稿することを目標とする。
その上で、以下のコース毎の目標を掲げる。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

教育(学)一般における研究的アプローチに基づいた、雑誌「創大教育研究」の研究論文に相当する研究成果を残すものとする。

(現職教員 10年以上)

教育(学)一般に通ずる内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

◇人間教育プロフェッショナルコース

(現職教員 10年未満)

自己の研究テーマにそった内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

(ストレートマスター)

自己の研究テーマにそった内容で、専門性を指向する研究成果を残すものとする。各自の目標設定によっては研究論文や研究ノートに相当する論文作成を目指す。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60%(4点/回×15=60)、振り返りレポート 40% による総合評価とする。

■使用教材

参考文献

宮崎・桐山ゼミの教職課題研究論文、抄録集

宮崎 猛「アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア」:ナツメ社、2017

秋田喜代美、恒吉僚子、佐藤学著「教育研究のメソドロジー」:東京大学出版会

■授業で使用する言語

(日)・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Cグループ)

■教員名 長島 明純 吉川 成司

■授業概要

各々の研究課題に関する学び合いを通して、「教職課題研究」論文としてまとめる力量を高めるとともに、その成果を教職課題論文としてまとめ上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと、夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第2回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第3回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第4回	夏季休業中の研究活動や「教職課題研究」論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第5回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第6回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第7回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第8回	「教職課題研究」論文の作成・報告。その改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第9回	論文の中間発表。① 【準備学習】準備学習教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第10回	論文の中間発表。② 【準備学習】準備学習教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成

第11回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。① 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第12回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。② 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第13回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。③ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第14回	「教職課題研究」論文の校正。改善点や問題など互いに吟味し合う。④ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第15回	教職課題研究」論文に関連して今後の課題を考える。まとめ。 【準備学習】教職課題研究論文を完成させること

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

管理職候補者

- ・生徒指導や特別支援教育などの課題について、整理理解し、論文としてまとめ上げる事ができるとともに、他の教員に対して、専門性をもって適切な論文指導ができる力を身につける。

(現職教員)

- ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導や特別支援教育などの課題について、深く考察し、それを論文として、まとめ上げることができる力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・各々の研究課題に関する学び合いを通して、生徒指導や特別支援教育などの課題について考察する力や、それを論文として構成しまとめることができる力を身につける。

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議、「教職課題研究」論文の内容などを、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書:

- 『子どもを育む学校臨床力』角田豊・片山紀子・小松貴弘編著，創元社，2016.
- 『キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』有村久春著，金子書房，2008.
- 『生徒・進路指導論』吉川成司編著，創価大学通信教育部，2013.

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Dグループ)**■教員名** 田村 修一 近藤 茂代**■授業概要**

本科目の目的は、教育事象や教育実践に関する科学的な論文を書く力を培うことである。具体的には、①先行研究の整理および論文内での記述の仕方、②データ収集のための準備と実際、③収集されたデータの解析と結果のまとめ方、④データに基づく考察の書き方、⑤実際の論文執筆、⑥引用文献一覧の書き方を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	研究データの収集(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第2回	研究データの収集(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第3回	研究データの収集(3) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	研究データの収集(4) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第5回	研究データの分析(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第6回	研究データの分析(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第7回	研究データの分析(3) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第8回	中間発表会 ★(プレゼン) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第9回	研究結果についての考察・論文の執筆(1) (全体指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第10回	研究結果についての考察・論文の執筆(2) (全体指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第11回	研究結果についての考察・論文の執筆(3) (全体指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第12回	研究結果についての考察・論文の執筆(4) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第13回	研究結果についての考察・論文の執筆(5) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。

第14回	「抄録」の書き方・「発表用スライド」の作り方 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。	(講義・討議)
第15回	「教職課題研究論文・発表会」のリハーサル 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。	★(プレゼン)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、教育研究をリードしていける研究能力を身につける。

(現職教員)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

■評価方法

「教職課題研究論文」の内容(完成度)とそこに至るまでの努力を加味し、総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ (Eグループ)**■教員名** 寺林 民子 三津村 正和**■授業概要**

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究方法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、教職研究論文の完成に向けて、個別指導を中心に進める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	夏季休業中の研究活動の報告と協議① 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第3回	夏季休業中の研究活動の報告と協議② 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第4回	夏季休業中の研究活動の報告と協議③ 【準備学習】研究活動の報告に備える。
第5回	論文の完成・提出までの計画策定① 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第6回	論文の完成・提出までの計画策定② 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第7回	論文の完成・提出までの計画策定③ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第8回	論文の完成・提出までの計画策定④ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第9回	論文の完成・提出までの計画策定⑤ 【準備学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第10回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議① 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第11回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議② 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第12回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議③ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第13回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議④ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。

第14回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議⑤ 【準備学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第15回	まとめ 【準備学習】一年の振り返り、まとめに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

- －教職課題研究論文作成の計画書
- －教職課題研究論文作成過程での中間報告
- －教職課題研究論文

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Fグループ)

■教員名 鈴木 詞雄 若井 幸子

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する④

	【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する⑤ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する⑥ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	教職課題研究論文を基に抄録を作成、提案し、討議する① 【準備学習】教職課題研究論文抄録の作成。本授業の振り返り。
第13回	教職課題研究論文を基に抄録を作成、提案し、討議する② 【準備学習】教職課題研究論文抄録の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文を基にプレゼンを作成、提案し、討議する 【準備学習】教職課題研究論文プレゼン用資料の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ －課題と展望－ 【準備学習】教職課題研究論文プレゼン用資料の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。

■評価方法

研究深化力・プレゼン力等を総合的に判断(特に教職課題研究論文の内容を重視)する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

((日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育課題実地研究(国内)奈良**

■教員名 **桐山 信一 石丸 憲一 若井 幸子**

■授業概要

教育課題実地研究(国内・奈良)は、国内の先進校(奈良女子大学附属小学校)との交流をとおして現代的な教育課題を探求することを目的とする。同小学校が長年にわたって積み重ねてきた教育の事実を、授業参観・聞き取り調査などを通して多角的に調査する。現代的な教育課題の一つである教師教育の在り方に関わる内容としては、校内の教師達による授業研究が彼らの専門的力をいかに形成しているかという視点から研究する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史① 大正期から活発な教育研究が積み重ねられている奈良女子大学附属小学校の教育研究を歴史的に研究する。 【準備学習】各自の研究課題を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第2回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史② 大正期から活発な教育研究が積み重ねられている奈良女子大学附属小学校の教育研究を歴史的に研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第3回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史③ 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。
第4回	奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史④ 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第5回	同小学校における授業研究体制・組織 同校の授業研究に取り組む研究体制・組織に視点を当てて研究し、校内研修、研究がどのように展開されてきたかを研究する。特に、同小学校での教員たちによる実践的共同研究集団の形成過程について研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第6回	同小学校の授業研究(授業記録に基づく研究) 授業研究の成果をまとめた同小学校編集の「学習研究」、「学習研究発表会資料」などをもとに授業研究の内容と研究方法を研究する。 【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。
第7回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む) I 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。

第8回	<p>学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅱ</p> <p>同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第9回	<p>学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅲ</p> <p>同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第10回	<p>学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)Ⅳ</p> <p>同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第11回	<p>各自の研究の集約と相互報告を行う①</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第12回	<p>各自の研究の集約と相互報告を行う②</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第13回	<p>各自の研究の集約と相互報告を行う③</p> <p>【準備学習】資料等を検討してくる。復習:振り返りをまとめる。</p>
第14回	<p>実地研究交流報告会(国内2コース合同)Ⅰ(予定)</p> <p>実地研究(奈良、堀川)の2コースの参加者が、各コースで研究の集約を行い、相互に報告し合うことにより、研究成果の共有と発展を図る。</p>
第15回	<p>実地研究交流報告会(国内2コース合同)Ⅱ(予定)</p> <p>実地研究(奈良、堀川)の2コースの参加者が、各コースで研究の集約を行い、相互に報告し合うことにより、研究成果の共有と発展を図る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたのかを、自らの教育課題として理解し直し、教育行政担当者および、学校管理職の立場で教育経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、同僚と共に学校づくりを進める力量を身につける。

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、

◇人間教育プロフェッショナルコース

奈良女子大学附属小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりに

どう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、自らの授業を深める力を身につける。

■評価方法

- ・授業の第1回～6回の研究をとおして各自の研究課題を把握し、研究のテーマ、内容を明確に設定できたか。
 - ・学校訪問による実地研究・調査をとおして、どのような点が明らかになったかを整理し、報告することができたか。
 - ・新たな研究課題を把握し、研究を発展させる見通しを立てることができたか。
- 以上のような観点から、授業における報告、討論への参加状況と最終レポートに基づいて総合的に判断する。

■使用教材

- ①木下竹次著・中野光編『学習原論』(世界教育学選集64)明治図書刊
 - ②奈良女子大学附属小学校学習研究会編著『確かな学習力を育てるすじ道』明治図書刊
 - ③奈良女子大学附属小学校学習研究会編著「学習研究」誌、各月刊行など
- その他 資料は適宜配布する
教科書は使用しない

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育課題実地研究(国内)富山**■教員名** 吉川 成司 田村 修一 寺林 民子**■授業概要**

国内の先進校との交流を通して、現代的な教育課題を探究する。当科目は、富山市立堀川小学校で現地研究を行い、当小学校が長年にわたり研究を積み重ねている実態について、授業参観等をふまえて調査研究する。特に校内での授業記録に基づく地道な授業分析が教師たちの専門的力量を形成している点に焦点を当てて研究する。実地研究のための準備としての事前研究、実地研究、そして事後の研究成果報告を通して研究を深め、発展しあえる共同研究者としての教師集団づくりへと視野を広げていく。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ・各人の問題意識・課題意識の明確化。 ・堀川小学校の紹介(映像・出版物)。 ・研究プロセスの見通し(科目履修生の研究経過紹介、冊子、資料) 【準備学習】シラバスを確認しておくようにしてください。
第2回	富山市立堀川小学校における実践的教育研究の歴史的外観 【準備学習】前回授業時の配付資料の学習
第3回	同校の授業研究の体制・組織と各自の研究課題 校内研究の展開、研究同人としての教師たちの実践的共同研究集団づくり 【準備学習】前回授業時の配付資料の学習
第4回	授業研究の基本的な構えと方法①と各自の研究課題 『授業の研究』(1959年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『授業の研究』(1959年、明治図書)の学習
第5回	授業研究の基本的な構えと方法②と各自の研究課題 『授業の研究』(1959年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『授業の研究』(1959年、明治図書)の学習
第6回	授業研究の発展・進化の経過①と各自の研究課題 『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)の学習
第7回	授業研究の発展・進化の経過①と各自の研究課題 『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)に基づいて 【準備学習】『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)の学習
第8回	実地研究① 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】観察やインタビューなどの対象や方法を検討しておく

第9回	実地研究② 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】実地研究での観察やインタビューなどの整理
第10回	実地研究③ 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 【準備学習】実地研究での観察やインタビューなどの整理
第11回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議① 【準備学習】実地研究の成果をレポートにまとめる
第12回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議② 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 【準備学習】実地研究の成果をレポートにまとめる
第13回	クラス全体としての研究成果のまとめ 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 【準備学習】交流学习におけるプレゼンテーションの準備
第14回	他の教育課題実地研究クラスとの交流学习①(予定) 【準備学習】交流学习におけるプレゼンテーションの準備
第15回	他の教育課題実地研究クラスとの交流学习②(予定) 【準備学習】教育課題実地研究報告会のための成果報告書の原稿作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子どもの成長を捉えるための教師の自己更新のあり方について、学校の教育経営、研究組織と研修内容の視点から省察し中・長期的な課題解決に向けて主幹教諭等に指導することができる。

(現職教員)

実地研究を通して自己の課題解明の道筋を明確化し、新たな実践研究の視点を見いだすとともに、校内研修を推進することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

子どもが生きる授業のはたらきについて、授業記録や研究協議記録の分析を通して省察し、自身の授業実践に反映できる。

■評価方法

研究課題レポート

実地研究の成果に関するリサーチペーパー

教育課題実地研究交流報告会で行うプレゼンテーション

■使用教材

『授業の研究』(1959年、明治図書)

『生き方が育つ授業』(上・中・下、1984年、明治図書)

『子どもの学びと自己形成』(2006年、明治図書)

『子どもの追究を拓く教育』(2015年、明治図書)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教育課題実地研究(国外)米国**■教員名** 坂本 辰朗 宮崎 猛 三津村 正和**■授業概要**

本授業では、教育問題を国際的な文脈において比較考察するとはどのようなことなのかを明らかにする。実地調査の前後の研究については、アメリカ合衆国における学校教育と教員をめぐる諸課題等に関して、集中による演習などによって実施する。米国では小学校、ミドルスクール、ハイスクール、大学、放課後プログラム等において、実地調査および教室での授業をおこなうが、その際、本授業参加者全員で共有するテーマとともに、各履修者が各自の課題を携えて、調査・研究することになる。履修者は最少催行人数 5 名、上限を 8 名とする。上限を越える履修希望者があった場合は選考をおこなう。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	国際比較の意義と研究の方法 比較研究の意義、視点、手法等について理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	アメリカ合衆国の近年の教育改革動向(1) 2000年以降の日米両国における「学力問題」への対応について。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	アメリカ合衆国の近年の教育改革動向(2) 近年の学校病理としてのいじめ問題などを取り上げ、それに対する日米両国の対応の基本的な構図を解明する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	教育課題実地研究の手法(1) 実地踏査の研究の手法を理解、獲得する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	教育課題実地研究の手法(2) 履修者の研究課題(米国で調査する教育課題)を中心に、当地で行うプレゼンテーションの準備を行う。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何か

	について考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(1)</p> <p>ハイスクールの実地調査および教室での授業実施によって、後期中等教育ならびに教師教育の現状、方法、課題等について日米比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第8回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(2)</p> <p>放課後プログラムの視察によって、親、学校、地域の役割などについて日米比較を通して考察する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第9回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(3)</p> <p>小学校の実地調査および教室実施での授業実施によって、多文化教育のあり方、いじめなどの教育課題について日米比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第10回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(4)</p> <p>ハイスクール(ミドルスクール)の実地調査および教室実施での授業実施によって、学校間のカリキュラムの連携や学力問題などについて日米比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第11回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(5)</p> <p>大学の実地調査を通して、高等教育の役割と課題、とりわけ教養教育と専門教育のありかたについて、日米比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第12回	<p>アメリカ合衆国での実地研究(6)</p> <p>フリースクール実地調査をとおして、公権力と学校教育の関係、教育の本質とその方法などについて探究する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第13回	<p>アメリカ合衆国実地踏査の総括</p> <p>各自の研究のまとめと本授業参加者全員による研究のまとめを作成し、研究成果の定着と発展を図る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何か</p>

	について考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	<p>実地研究交流報告会(1)</p> <p>実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第15回	<p>実地研究交流報告会(2)</p> <p>実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校経営や教育行政等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

(現職教員)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校運営や授業研究、生活指導等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日米両国の比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容等について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を自らの授業実践や学級経営、生活指導等に活用するための識見と力量を育成する。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:20点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案 30点

S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

以下はすべて参考文献である。

北野秋男・大桃敏行・吉良直（編）『アメリカ教育改革の最前線：頂点への競争』（学術叢書、2012年）

佐藤仁『現代米国における教員養成評価制度の研究—アクレディテーションの展開過程』（多賀出版、2012年）

宮寺晃夫（編）『再検討 教育機会の平等』（岩波書店、2011年）

■授業で使用する言語 日本語、英語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

■科目名 教育課題実地研究（国外）中国**■教員名** 長島 明純 董 芳勝**■授業概要**

中国の教育実践現場の実情を知り、中国に求められている教員像と教員養成の在り方を理解する。そして、日中両国の教育現場の授業実践交流を通して、教育実践での現代的な教育課題や未来の国際化を志向する教員像を探求する。そのため、実践的に中国の教師教育をリードしている首都師範大学の教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流を行う。また、中国の学校を訪問し、授業参観や教育活動、教育対話を行う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション。今年度行う本実地研究の課題を確認。中国の教員養成制度を中心に、政治・経済・文化・風俗・習慣など概説。協議。 【準備学習】参考図書などで、本授業で学ぶ該当部分を調べ、本授業の意義を確認する。
第2回	首都師範大学及び北京教育委員会などの概要説明。これまでの創価大学と中国の教育諸機関との交流について概説。 【準備学習】これまでの創価大学と中国の教育機関との交流について、大学のホームページなどで調べ、本授業におく各自の目的を明確にする。
第3回	これまでの課題実地研究（中国）の成果と課題について解説し、中国で報告する日本の教育実践についての協議。 【準備学習】これまでの実地研究の報告書などを読み、これまでの中国での教育交流の経緯を知る。
第4回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について調べて、資料収集する。
第5回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について整理しておく。
第6回	中国で報告する日本の教育実践のまとめ・準備。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践についてまとめておく。
第7回	南開大学などを訪問し、日中の教育に関して研究交流を行う。 【準備学習】中国での実地研究の学びのために、役割分担や必要な機材など準備しておく。
第8回	首都師範大学訪問による実地研究（日中の教育実践の報告、研究協議） 同校を訪問し、教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流。 【準備学習】中国での実地研究の学びを記録しておく。
第9回	首都師範大学訪問による実地研究（日中の教育実践の報告、研究協議） 同校を訪問し、教員養成課程の院生やここで学ぶ現職教員などと交流。

	【準備学習】第7回と同じ。
第10回	北京市教育委員会の教育研究所などを訪問し、研究協議など行う。 【準備学習】第7回と同じ。
第11回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し吟味する。 【準備学習】記録した中国での実地研究の学びを整理しておく。
第12回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し整理する。 【準備学習】第11回と同じ。
第13回	中国学校視察総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果をまとめる。 【準備学習】第11回と同じ。
第14回	中国学校視察総括。各々の課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、資料としてまとめる。 【準備学習】第10回と同じ。
第15回	実地研究(国内・外)のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめを作成し、国内・国外のグループに分かれ、それぞれ相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教育行政担当者および校長、副校長の立場で学校経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、同僚と共に学校づくりを進める力を身につける

◇人間教育プロフェッショナルコース

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教師としての確かな実践能力を形成することができる。

■評価方法

授業の第1～6回の研究をとおして各自の研究課題を把握し、研究のテーマ、内容を明確に設定できたか。また実地研究をとおして、どのような点が明らかになったかを整理し、報告できたか。また新たな研究課題を把握し、研究を進展させる見通しを立てることができたか。このような観点から、授業における報告、討論への参加状況と報告レポートなどに基づいて評価する。

■使用教材

参考書 諏訪哲郎、王智新・斉藤利彦編著『沸騰する中国の教育改革』(学習院大学東洋文化研究叢書)、東方書店、2008年、3200円)

※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)